

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 2 号)

1 平成5年12月13日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	23番 石井 昌治
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20番 生稻 隆

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫
農業委員会 斉藤 明	農業委員会 小倉 孝

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
------------	-------------

書 記 四ノ宮 朗

書 記 安田 仁一

書 記 小山 真

書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第2号）

平成5年12月13日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時00分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第4回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の12月8日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

8番議員永井龍平君。御登壇願います。

（8番議員永井龍平君登壇）

◎8番（永井龍平君） おはようございます。さきに通告いたしました諸点について御質問いたします。

平成5年も残すところ18日となりました。本年ほど近年にない激動、変革、天変地妖であった年はありません。御案内のとおり、政治においては、自民党政権の崩壊、連立与党の誕生、経済においては、底入れの見えない大不況、

それによる株式の大低落、自然界におきましては、戦後最大級の台風の来襲、大地震とその津波、長雨、冷夏等、その影響による農作物の大不作など、米不足の問題は今なお深刻な問題として日本じゅうにその影を落としております。このような不況列島の中で、現在平成6年度の予算編成が進められておりますが、市長さんを初め執行部の方々には大変困難な作業であると考えますが、市民がよりよい生活ができますような予算を編成していただきたいことをまずお願いいたします。

さて、通告いたしました私の質問は、市民に関係の深い問題を取り上げてみました。まず第1に健康医療行政についてであり、骨粗鬆症の早期発見と治療のための骨密度測定機と総合検診の導入についての質問をいたします。老人保健に一部負担制度が導入されましたが、老人医療費は上昇の一途を続けているのが実態でございます。本年千葉市において中高年、高齢者の5,300人を対象に実施した老後の健康についてのアンケート調査では、最大の不安は寝たきりになることがトップであり、痴呆症になるの前回調査、1985年の2倍以上になったということであります。

現在急速に進んでいる高齢化で、寝たきりになる高齢者が増加しております。高齢者の中には背中や腰が曲がっている人を多く見かけます。以前は年のせいと考えられており、余り問題にされませんでした。老人が寝たきりになる比率が最も高い原因として骨折が挙げられておりますが、これらも骨粗鬆症が原因であることが最近明らかになりました。孫に不用意に背後から押されて、簡単に腰椎の圧迫骨折を、また干した布団を取り込もうとしてバランスを失い、大腿骨、頸部骨折で病院に運ばれてくるケースは大変多いと病院関係者からお聞きしております。老人の骨折は高齢化社会の副産物であります。長期のベッド上の安静のため、老人性痴呆症の併発、肺炎等の引き金となる厄介な病気で、そのベースになっている隠れた病気が骨粗鬆症であります。

骨粗鬆症という病気は、骨が皮膚や消化器などの組織と同様に代謝活動を行っており、常に骨の古くなった部分を溶解して新しい組織に生まれかわる再生を繰り返しております。この代謝活動が正常に行われていれば、骨は一

定の密度を保つことができます。骨粗鬆症は、このバランスが崩れ、古いカルシウム部分が抜けても、それに見合う新しい骨がつくられない状態をいいます。この病気になりますと、骨は軽石のようにすかすかになり、その骨が体重を支え切れずにつぶれて、背が低くなったり、ちょっとしたことで骨折をしやすくなります。健康な人の場合は骨の真ん中が折れやすいのでありますが、骨粗鬆症の人は太もものつけ根、胸のつけ根や手首などの骨の端の部分が折れやすくなる特徴があり、骨粗鬆症で寝たきりになる人が多いと言われるのは足のつけ根を骨折する人が多いからと言われております。

現在全国で骨粗鬆症の患者数が約 700万人とも 800万人ともいると推定され、しかも毎年増加の傾向であるようでございます。特に、女性は40歳前からカルシウムの減少を来し、その後急速に低下するため、骨密度が減少することによって骨がすかすかになり、骨折しやすくなりますので、18歳から39歳までの女性のチェック検査を行い、早期発見早期治療を施すことによって寝たきり老人の2大原因の1つとされている骨粗鬆症の予防ができるならば、これからの高齢者はより健康に生活ができるものと考えます。そのためには、骨密度測定機を設置して、健康診断に加え、本症の早期発見に努めるための早期導入は考えられないか、市長さんの御所見をお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点、市民運動場等のスポーツ施設の施策の充実について御質問いたします。文部省が本年10月にまとめた体力運動能力調査で、投げる、跳ぶなどの基本的運動能力が低下し、現代っ子のひ弱さが加速していることがわかりました。10代の体格は、10年前よりは身長、体重ともに大きく伸びておりますが、体は一段とかたくなっており、一方中高年の体力は、数年前までは上昇傾向であったが、前年度に比べて横ばいで、二、三年前からの停滞傾向が定着した形であると発表しております。

現在のスポーツ熱は盛んで、特に国技、大相撲と野球、そして世界的に人気のあるサッカーが、本年5月に10チームでJリーグが開幕して、大変なサッカー熱が日本じゅうに巻き起こっております。あるスポーツ評論家は、よりよいスポーツ像として、記録を競うスポーツと楽しみながらする生涯スポ

ーツは地域単位のクラブ、組織があれば両立ができ、子供からお年寄りまで、また学生や社会人もおり、一流選手も参加できれば、これらの選手、若者の動きに刺激されて中高年も頑張り、選手の練習ぶりを一般の人が見て学び、また子供たちはいろいろな種目を経験しながら自分に一番適したものを選び、打ち込むことができる。そのためには、あらゆるスポーツと科学的トレーニングができる施設設備が必要であると言っております。何も立派なものでなくともよいと思います。こうしたスポーツ像を目指すためにも、このスポーツ施設の充実を考えていただきたいと思います。

そこで御質問いたしますが、市内の小中学校にはどのようなスポーツ施設と科学的トレーニング機器の設備がございますか。そして、市民運動場等に手軽にできる芝生、ゴールを備えたサッカー場の新設はどうですか。そして、市民運動場等にナイター設備の設置の質問を以前いたしました、その後どのような検討がなされましたか。以上お伺いいたします。

次に、第3点目の市道の拡幅と改修、排水路の整備についてでございますが、市道160号線の拡幅改修と排水路の設置についてお伺いいたします。この道路につきましては、私は平成3年12月議会に学校通学路の整備について取り上げております。この道路は、相生橋から信号を渡り切って天理教前を通り、妙台寺前の約90メートルの道路であります、この市道の拡幅整備を要望いたしました。

御承知のように、この道路は大変多くの館山小の学童、幼稚園児が利用しており、また相生橋を渡り、仲町、宮城方面へと行く車両が大変多くあります。特に、朝夕の通学、通勤時には普通自動車のすれ違いが全くできません。学童、一般利用者也、あいているスペースを探して車の通過をやり過ごすのが実情でございます。道路幅が3.5メートルを欠けて、しかも老朽化により路肩は十数メートルも崩れており、しかも道路の数カ所に穴ぼこがあり、特にひどい穴などは直径50センチ、深さ15センチまでなったところがあり、雨天のときなどはその穴に雨水がたまり、穴とは気づかず、自転車などの通行者はその穴に落ちて転倒したほどでございます。近所の方の連絡で、市にお願いして埋め立て補修をしていただきましたが、その後しばらくすると壊れ、

これまで数回の補修を繰り返しております。また、この道路には排水路がなく、少しまとまった雨が降りますと冠水して、地域の住民も大変困り切っているのが現状でございます。市長さん、利用者的大変多い、また通学路でもあります市道がこのような危険な道路の状況でございますので、利用者の安全を図るためにも早急なる対応を要望いたしますが、いかがでしょうか、お尋ねをいたします。

次に、市道1045号線の拡幅整備について御質問いたします。この市道は、相生橋から北へ走る汐入川沿いの長須賀のところの道路ですが、この問題につきましても平成3年3月議会に質問をいたしました。そのときの市の説明では、民地の所有者の理解をいただき、用地の取得をし、河川については県と協議をし、少しでも広く幅員のとれるように努め、道路改良においては相生橋のかけかえ工事が完了するまでに実施をしたいとの説明をいただきました。また、本年3月の予算質疑で重ねてお尋ねをいたしました。このときの御説明では、北側の民家の密集地については側溝工事をして道路幅の解消をしたが、東側については用地交渉をしている段階で、河川敷については館山土木と下協議を行い、河川断面を狭めることになるので非常に困難性が高いが、完全にだめとは言っておらないが、そこについては非常に道路が狭いので、今後もその方法等で考える、このようなお話をいただきました。

立派なすばらしい相生橋をつくっていただき、利用者の市民は大変に喜んでおります。御承知のように、この相生橋は、東は豊房、千倉、西は仲町、西岬、南は神戸、白浜、北は長須賀、北条方面と、ネットワークの重要なベースポイントになっております。その西側の160号線と北側の1045号線が現状のままでは、この立派な役割を果たすために完成いたしました相生橋も悲しんでいるのではないかと私は思うわけでございます。市長さん、どうかこの2つの道路の拡幅と改修、側溝の整備を早急に施していただきたいと思いますが、いかがでしょうか、お尋ねをいたします。

最後に、福祉行政についてお尋ねをいたします。まず、この不況の折、障害者の雇用促進の状況はどうですか。また、市役所及び市の関連施設に障害者のためのパーキングゾーンの設置をお願いしたいということでもあります。

去る12月9日は障害者の日でありました。しかしながら、障害者の日を知っている人は、平成4年の総理府の障害者に関する世論調査によりますと、わずか24%にすぎませんでした。

昭和45年に施行されました心身障害者対策基本法を23年ぶりに抜本的に改正、法律の題名も障害者基本法と改める法律案が今臨時国会で成立いたしました。この障害者基本法は、障害者を取り巻く社会情勢の変化に対応し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図るものと期待されます。

この法律では、第6条の自立への努力の項では、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるために、初めて障害者の日は12月9日とするとの条項が明確に盛り込まれました。

そして、この法律の第2章の障害者の福祉に関する基本的施策の事項で注目される点は、第15条の雇用促進等であります。新たに条文の項には、事業主は、社会連帯の理念に基づき、障害者の雇用に関し、雇用の安定を図るよう努めなければならないと規定され、それとともに国、地方自治体に対して、障害者を雇用する事業主に対して障害者が雇用されるのに伴って必要となる施設設備の整備に要する費用の助成と、そのほか必要な施策を講じなければならないとしておりますが、現在不況による雇用情勢が一段と悪化している中で、当市におきましてこの障害者の雇用促進の現況はどのようなになっているのかお伺いいたします。

そして、この法律の第22条の項では公共施設の利用を設けており、それによりますと、国、地方公共団体は、自ら設置する公共施設や交通施設について障害者の利用に配慮することを盛り込んでおりますが、私はある障害者の方から要望されました。それは、市役所及び市の施設の入り口近くに障害者のためのパーキングゾーンを設けていただきたいとのことでした。民間の大型店舗でありますジャスコ等にはこのゾーンは設置してあります。市役所等にはございません。障害者のための自立と社会参加の一助となります細かい配慮となる提案でございますが、市長さんの御見解をお聞かせください。

終わりに、老人福祉センターの浴室、浴槽にバンドレールの設置をしていただきたいということでございます。今4人に1人が65歳以上という超高齢

化社会が目前に迫りつつあります。住みなれたまちで家族や友人に囲まれて安心できる生活をしたい、これはだれもの願いでもあります。長い間施設収容型であった我が国の福祉も、少しずつ在宅型福祉に方向転換しつつあります。現在全国の市町村が取りまとめている老人保健福祉計画もその典型的な施策であります。当市も本年7月にこの計画策定のための高齢者ニーズ調査が行われ、その調査結果によりますと、回収者数 2,045人に対して、行政への要望 202名、件数にして 296件であり、要望の主なものとして、総合病院に関する要望が70件、福祉サービスに関する要望36件との回答があったようですが、私の質問はこの福祉サービスの要望に関連いたします。それは、湊、出野尾にございます老人福祉センターの浴室の浴槽に安全と手助けの役割をするためのハンドレールを設置してくださいということであります。

この老人福祉センターは、開館が午前9時で、閉館が午後4時半までで、60歳以上は無料であり、そして60歳未満の人は市内が 150円、市外は 300円となっております。私も時折利用しており、大変便利で、きれいな施設であります。このハンドレールの設置につきましても利用者の方から強い要望がありました。利用者のほとんどの方が60歳以上であり、中には歩行が困難な方や、足のしびれ、リウマチ等で足の曲げ伸ばしが自由にできない方もおります。最近の民間の入浴施設では、大部分のところで浴室や浴槽にはこのハンドレールが設置してあります。普通の家庭においても、お年寄りのおられるところではこのハンドレールをつける家庭がふえてきております。骨粗鬆症の骨折を例に挙げるわけではありませんが、高齢者のための市の入浴施設にこの設備がないということが不思議でなりません。安全で快適な入浴をしていただくためにも、また老人福祉サービスの一環としてこのハンドレールの設置を考えていただきたいと思います。市長さんのお考えをお聞かせください。

以上御質問いたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、骨粗鬆症の早期発見、治療のための骨密度測定機と総合検診の導入についての御質問でございますが、厚生省では現在骨粗鬆症の検診方法について研究中と伺っております。館山市の骨粗鬆症対策といたしましては、これにかかると回復は非常に困難でございますので、現段階では予防にまさる対策はないと認識いたしております。この予防の健康教育を医師、保健婦及び栄養士によって行っているところでございます。

次に、大きな第2のスポーツに関する問題、教育長より御答弁申し上げます。

大きな第3の小さな第1点目、市道160号線の整備についての御質問でございますが、現在設置されております側溝をふたかけ式のものに改修するとともに、道路ののり敷部分の有効利用を図る構造としてこれから整備してまいりたいと考えております。

小さな第2点目の市道1045号線の拡幅整備についての御質問でございますが、かねてより地元住民から整備の要望がございました。現在用地交渉を行ってまいりましたところ、ようやく地権者の了解を得る段階になりましたので、工事を実施する予定でございます。また、河川側につきましては、管理者でございます千葉県と協議をしているところでございます。

大きな第4の小さな第1点目、不況の折、障害者の雇用、促進の状況についての御質問でございますが、館山職業安定所に伺いましたところ、安房管内における平成5年6月の障害者雇用状況は、雇用率1.68％となっております。障害者の雇用の促進等に関する法律に定めました障害者の雇用率1.6％を満たしております。

次に、大きな第4の小さな第2点目、市役所及び市の関連施設に障害者のためのパーキングゾーンの設置をとの御質問でございますが、障害者の自立と社会参加への配慮として、障害者用駐車場の確保の必要性は認識しております。市庁舎及び市の関連施設の駐車場につきましては、障害者が円滑に利用できるよう、設置を考えております。

次に、小さな第3点目、老人福祉センターの浴室、浴槽にハンドレールを

設置すべきではとの御質問でございますが、浴室と浴槽の段差及び手すりの設置箇所等を考え合わせ、安全で利用しやすい方向で検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2の小さな第1点目、市内の小中学校にはどのようなスポーツ施設と科学的トレーニング機器があるかとの御質問でございますが、まず小学校におきましては体育館、運動場、プール、中学校では体育館、柔剣道場、運動場、テニスコート、プール等がございます。また、科学的トレーニング機器につきましては、簡単な機器はございます。

次に、小さな第2点目及び小さな第3点目、市民運動場等に手軽にできるサッカー施設の新設及び市民運動場等にナイター設備の設置についての御質問でございますが、今年度設置いたしましたスポーツ振興審議会におきましても社会体育施設の整備につきましては多くの御意見が出ておりますので、今後長期的な展望に立って総合的に検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） それでは再質問させていただきますが、まず第1点の骨粗鬆症についてでありますけれども、御答弁では、いわゆる骨粗鬆症予防のため、市で骨粗鬆症のための健康教育をしているということでございますけれども、医師、保健婦、栄養士等で指導しているということでございますけれども、もう少し具体的な説明をお願いしたいと思うんですけれども、どのような方が指導を受けて、そしてどのくらいの人数の方が年間受けておられるのか、まず伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 館山市でどのような健康教育を行っているか、その具体的な内容ということでお尋ねでございますけれども、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、骨粗鬆症の最大の効果は適切な生活習慣を身に

つけるということから、先ほど市長からお話ししましたとおり、医師、保健婦、栄養士により、個人または集団の指導、相談を実施しているところでございます。その内容としましては、栄養、運動等の適切な生活習慣の指導、また相談では、不安な人、治療中の人、その他保健推進活動によりますバランスのとれた食生活の啓発に努めているところでございます。今まで教育の場として提供しましたのは過去6回でございますけれども、これから7回、計年間13回を予定しております。参加の延べ人員は約500名ということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 私の提案は、できれば18歳から39歳——40歳ごろから骨粗鬆症のあれが出てくるということなんだそうでございますけれども、この程度での指導、教育では、ちょっとその骨粗鬆症になっている方等のいわゆる対応と申しますか、こういったことはどうなんでしょうか。いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） なっている人たちの対応ということでございますけれども、あくまでも健康教育は大事だということで、館山市の行政サイドとしては教育ということで力を入れて行っているところでございます。その後、なっている人たちの対応ということですが、これは医師、医療機関で対応すべきものと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 骨密度の測定機がありまして、エックス線を使いましてアメリカ製の最新鋭機だということでございますけれども、大阪府で昨年とことし4台ほど購入いたしまして、各保健所を巡回して検査を実施しているようでございます。また、大阪市では来年度から市内の全保健所にこの検査機を導入して、来年度からこの検査を実施する方針のようでございますけれども、大阪府内の枚方市にある保健所では、本年10月1日から11月20日

までの期間に週2回、1回25人ずつ検査を行ったそうでございます。そして、9月の広報にその検査をこういうふうにやりますよという予告をしましたところ、電話申し込みが殺到いたしまして、すぐに満杯になっちゃった。9月いっぱい満杯になっちゃった。そして、非常に市民の関心が高かったということです。このように関心が高いということは、先ほど私説明いたしましたけれども、将来寝たきりにはなりたくない、こういう思いが顕著にあらわれている証左じゃないか、このように思うわけでございます。先ほどの千葉市のアンケート調査でも、寝たきりになるのが一番不安である。

そしてまた大事なのは、寝たきりの2大原因が――脳血管障害とこの骨粗鬆症による骨折が2大原因であるわけでございます。ですから、この病気になるのが圧倒的に多いのは女性でございます。この女性で一番悩まされるのが腰痛、90％はこの骨粗鬆症のための腰痛である。ですから、自分の骨の質、そして状態をなるべく早く知ることがこの治療のポイントなんです。それがありますので、従来、今まで行われてまいりました婦人に対する成人病検診にこの検査の項目を加えたならば、健康で快適な老後を生きるための対策として、病気になって病院にかかるより、病気にならないためのこのような老人健康対策がされれば、個人と家族の苦痛や負担はどれほどか軽減され、さらには当市にとりましてもコスト削減につながる、このように考えます。そういう意味合いでも、こういう測定機を購入して、そして健康診断に加えたかどうかと思いますけれども、重ねてお伺いいたしますが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この装置を市に導入したらどうかという御質問でございますけれども、現在厚生省におきまして検診手法の検討中ということをお伺いしているところでございます。今後この検診方法が確立された場合、この機器の整備につきましては、医療機関、あるいは県の機関でございます保健所等が考えられるわけでございます。今後この動向を見守っていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 今厚生省のお話が出ましたけれども、厚生省では来年度からモデル的に全国でこの骨粗鬆症の検診事業を実施の方向で考え、検討を進めているようでございます。このモデル事業の具体的な内容といたしまして、今まで実施してきました婦人に対する成人病検診にこの骨密度測定項目を加えまして、その検診は各都道府県ごとに2カ所——保健所と医療機関で行って、保健所には測定機を新たに導入、そして医師、レントゲン技師等が検診に当たって、骨量が少ないと診断された人に対しては栄養士が予防のための栄養相談などを行う、このようになっておるようです。そして、その対象としましては、先ほど申し上げましたが、18歳から39歳までの女性が対象でございまして、測定機はエックス線で全身をスキャン、精査して、グラフィック——いわゆる画像による認識が可能で、骨密度が正確に測定ができるようでございます。事業費としましては、測定機の導入、設置費で各県1台につき3,600万円、医師などの人件費等に99万、さらに医療機関への委託費用といたしまして176万、総計6億2,400万円を見積もって概算要求しているようでございます。これができるば、そのうちの市町村と県が3分の1ずつ、国が3分の1を助成するようになるようであります。このような形で国の骨粗鬆症対策が現在進められているようであります。

ですから、市単独ではちょっと無理であれば、これから国、県の動向を掌握なさって、当市、安房が候補地として今から名のりを上げて、うちへ持ってきてくださいと手を上げて、県への働きかけが大事ではないかな、このように考えますけれども、いかがでしょうか、お尋ねをいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この導入について館山市として、いわゆる候補地といいますか、モデル的に実施したらどうかというお尋ねでございますけれども、この件につきまして県に照会しましたところ、各県でモデル的に実施しているというところは聞いていないという御返事でした。そういったことで、既に平成4年度から国において数カ所試験的に導入し、着手しているということを知っておりますので、今後この成果を見守っていきたいという

ふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 私の調査したところによれば、今私が説明したようなふうになるんじゃないかなと思いますので、早目に — 早い者勝ちではありませんが、県の方に、そういう動きがお耳に入ったら、すぐに強力に働きかけていった方がいいんじゃないか。よろしく願いいたします。

次に、市民運動場等のスポーツ施設の充実について御質問いたします。第1点目ですが、簡単な科学的トレーニング機器があるとのお答えでございしますが、私は本年10月に議員団でベリンハム親善交流と視察に行かせていただきまして、大変ありがとうございました。そのときに、ベリンハム市警 — 市の警察を視察しました。そのときに、体力トレーニングルームで1人の婦人警官の方がサイクルマシンを使って汗びっしょりで、一生懸命体力づくりをしておりました。

私の調査では、小中学生の体力づくりの機器として、エアロバイク — 今言いましたサイクルマシンですか、ステアマスター — これは階段上り、ラボード — これはランニングマシン、これらはどういう役目をするかという、心肺機能の向上と下肢の筋力アップ、またアブドミナルといいまして、腹筋を強くする機械です。バックエクステンション — これは背筋アップをする機械でございますけれども、これらの機器等を各学校に配備して、子供たちの体力 — さっきの運動基礎能力が低下している。そのアップのために配備してやらせたらどうか、このように考えますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいま体力向上ということでもって各種の器具の名前が出ておりますけれども、現在館山市内におきます小学校におきますもの、中学校におきますトレーニング機器の種類でございますけれども、科学的というようなものではございませんで、非常に素朴的ではございますけれども、鉄垂鈴とか腹筋台だとかバーベルだとかクライミングロープだとか、

そういうような施設は備えてございまして、ただいま永井議員さんの申されたような各種機械的なものについては設置しておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） ですから、私が今申し上げましたこういう科学的トレーニング機器を導入して体力アップを図ったらいかがですかという質問でございますが。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 小中学校におきますところの体育活動は、児童生徒の体力的な発達に即応いたしまして、偏りのないところの体力向上を目指すものでございまして、その発達段階の非常に激しい児童生徒のトレーニングということは大変難しい問題がございます。かえてそのものを使うことによりまして、発育の阻害を起こす危険性もあると言われておりますので、指導員のついているところのそういう箇所ではございましたらば、そういうようなものを利用して、一部それを使うことは可能であるかと思ひまして、中学校の部活動の特殊的なものについては可能かと考えられます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） では、中学生に対しては可能で、そしていわゆるコーチなりトレーナーなり、そういった人たちを養成して、そしてやっていったらいいんじゃないかな、このように思いますけれども、そういう方向でまた十分研究して、考えていていただきたいな、このようにお願いいたします。

次に、小さな第2点のサッカー施設の新設についてお尋ねをいたしますが、本年の、1993年の日本新語、流行語が決まりました。大賞には、ことし開幕して全国に旋風を巻き起こしたＪリーグという言葉が選ばれております。そして、新語部門の金賞にも、サッカーチームの熱狂的ファンを意味するいわゆるサポーターであります。ゆえに、Ｊリーグの人気の高さが非常に高いことをうかがわせておるわけでございますが、当市においても第1回社会人サ

サッカーが9月に開幕しました。6チームでリーグ戦を繰り広げて、決勝戦では海上自衛隊が優勝したそうでございますけれども、このときは市長さんごらんになったそうで、房日を見ましたら、大いに盛り上がって、来年が楽しみです、このようなコメントが書いてありました。来年が楽しみだ、そのような社会人リーグであったとのことでございますが、今のサッカーブーム、老若男女を問わず、する人、しない人を含めてファンは急増しているわけでございます。

そこで質問いたしますけれども、御答弁におきまして、スポーツ審議会において10月に行ったそうでございますけれども、社会体育施設の整備についていろんな御意見があったようでございますけれども、このサッカー施設についてはどのような意見がありましたか。そして、現在サッカーの練習と大会場としての施設はどこを利用されておりますか、お聞かせを願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 議員さんのお話のとおり、本年はサッカーに明けてサッカーに暮れたということは事実でございますし、市におきましても子供たちの遊びの大部分がサッカーに向いているのは事実でございます。そのため、現在学校等でもってサッカー場等の施設設備と言われるものは運動場に設置はしてございまして、市内の学校等におきましても、小学校では9校できる、中学校におきましては3校というような施設の状態でございます。

また、スポーツ審議会におきましてどのような御意見が出たかというお話でございますけれども、いわゆる社会体育の振興を図るための施設の整備ということを経合的な中でもって現在は話をしているところでございまして、その一部としてサッカー場の問題は、ただいまの社会人リーグの開設等とあわせまして話題にはなっているところでございます。とにかくスポーツレクリエーションの振興というものを総合的に考えて、市民の体力向上を図っていくということとともに、児童生徒のスポーツ等の指導のあり方というものがあるといいかということについて中心的に話しておりました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） そうすると、具体的にこのサッカーの施設についての意見はなかったわけですね。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この点につきましては、どこにということではございませんで、市民運動場及び東運動場の使用及びコミュニティセンターの広い場所での利用、そして各学校の利用ということでございましたけれども、東運動場並びに市民運動場につきましては、あの運動場は芝生になっておりまして、多目的な運動場でございますので、サッカーのスパイクを使用いたしますというと、次回のときからなかなか他のスポーツに利用するのに問題があるのではないかということは話題にはなっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） わかりました。じゃあきちっとしたサッカーの練習場と芝生コートを用意したのはないわけですね。

社会人サッカー選手とサッカーを楽しむ人たちの声として、コミセンの前広場はよく大会なんかで使われているようでございます。これは私も聞いて、見に行ってみたんですけれども、芝生コートでないんです。雑草なんです。雑草のコートなんです。非常にそういうサッカーをする人にやっぱりちょっと——芝生にしてくれ、していただきたいという要望があるんです。1月の、正月ですか、北海道とか、全国から多くの子供たちが来てのイベントがあります。そのときの少年たちの指摘にもその不満が漏れたようでございます。また、あるリーグの方が私に、立派な施設でなくてもよいから、最低限のスペースと芝生コートを備えたサッカー場の施設を新設していただきたい、このような要望がありましたので、ぜひそういうものを1つでも、どこか畑を借りて、それで設置して、芝生をあれしてという感じでつくっていただけたら、このように思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ごもっともな御要望かとは思いますが、サ

ッカー場の面積というものは御承知のとおり相当数の面積を必要とするものでございまして、社会人の本格的にやるというものになりますという、現在施設等の設備等でもって、スポ審等でもその件につきましても十分話をしている最中でございますので、御要望としてさらに審議会等でもって話を進めていきたい、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 今のコミセンの前広場ですか、使っている、あれを芝生コートに変えてはどうかということを御提言しておきます。

次に、ナイター設備の設置についてでございます。現代の社会状況の中で、心にいつもストレスを抱えている人が多くなっている。日々の疲労感、倦怠感に悩まされ続ける人が大変多いんです。中高年にとってスポーツというのは、適度な運動というのは、スポーツは老化の防止、成人病の予防、そして体調を良好に保つ、脂肪を減らして体重のコントロール、体力づくり、ストレスの解消と、大きな効果があると言われております。しかしながら、仕事を持っている一般社会人の方は時間的に日中のスポーツを楽しむことは無理のようでございます。

ここで、既に御承知かと思えますけれども、ナイター施設のございます三芳村と千倉町の施設についてちょっと説明してみたいと思います。三芳村では、昭和53年に三芳中学校に設置、教育委員会が管理しております。シーズンの4月から10月までが主な利用期間でありまして、その利用者は一般人が多く、野球、サッカー、消防団の訓練、そして青年団のレクリエーション、そして教育委員会の関係行事等にいろいろと利用されて、料金は初めの1時間が3,090円で、1時間増すごとに1,030円でありまして、この期間中は雨天を除きほぼ毎日のように利用されているようであります。

また、千倉町、町の運動公園に平成元年に設置、利用期間と利用率は、三芳村と同じくほぼ毎日のように利用されております。冬季には東京方面からの大学生がキャンプに来て使用するそうでございます。施設としては、多目的グラウンド、テニスコート3面があって、グラウンドでは芝生コートがありまして、サッカーの練習、大会等に使用されておるようでございます。利

用者、利用方法は三芳村とほぼ同じでありまして、利用料金は三芳村よりちょっと高い。日中の使用料金が1時間 2,060円、ナイター利用ですと、3,090円プラスの 5,150円であります。町外の方は50%アップ。それで、ちょっと特筆すべきことは、テニスコートの3面はナイター設備がないんです。なために、来年度予算で要望していくと公園関係者は話しておりました。

以上、三芳村、千倉町のナイター設備について説明いたしました。いずれも町村民がこの施設を有効に活用してスポーツを楽しんでいるわけでございます。したがって、当館山市におきましてもこのようなナイター施設は市民のためにもぜひともつくらねばならないと私は思うわけでございますが、いかがでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 先ほどお話しになりましたこのスポーツ審議会でもそのような問題の話が出ているようなことでございまして、現在既存の市営の社会体育施設にすぐに設置するというためにはいろいろの条件があるようでございます。それらのこと等をクリアしながら総合的に検討いたしまして、そのような方向にそれぞれの立場でもって、でき得るならばみんなして協力していきたいとも考えておりまして、今後も審議会へさらに強力にお話を持っていきたい、こう考えます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） わかりました。それでは、努力をひとつお願いしていただきたいな、このように思います。

3番目の市道の整備についてでございますけれども、今後整備していくとの御答弁がありましたけれども、あのような道路でございます。それで、ふたかけ等をしながら整備していくというお答えでございますけれども、時期的にはどのくらいになります。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） まず、整備の際の前提となります道路と民地の境界が必要でございますが、過去に不調であった経過がございます。そういうことがございますので、今後同意を得るべく努力してまいり、その後測量

等調査をいたしまして実施してまいりたいというふうを考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で8番議員永井龍平君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告をいたしました4点について質問を申し上げます。

まず第1は、米の部分開放と食糧制度の堅持について御質問を申し上げます。ウルグアイ・ラウンド——すなわちガットの多角的貿易交渉の市場参入グループのドニ議長がこの7日に米の部分開放を求め、調停案を日本政府に示しました。このことにより、日本じゅうが現在パニックになっておりますことは御案内のとおりでございます。この状況は、安保闘争以来の反対運動が展開され、デモ隊の一部が国会に乱入するという事態まで起きているわけでございます。各自治体でも連日のように米の自由化、関税化反対の決議がなされているように新聞報道されております。

そこで、これほど大きな問題になっている米の部分開放の受け入れについて、これまでの国会、さらには県議会、館山市議会の決議とあわせ、市長の所信と対応についてどのようにお考えになっておられるのか、御質問を申し上げます。

小さい2番目に、ドニ議長の調停案に示された米のミニマムアクセス——すなわち米の最低輸入量を関税化を6年間実施しないかわりに4%から8%に毎年拡大することが盛り込まれております。したがって、調停案を受け入れた場合には当然食糧制度の改正をしなければなりません。生産者だけでなく、消費者にも大きな問題が生まれてまいります。この点について市長はどのように対処されようとしておられるのかお伺いします。

小さい3番目、農水省は昨年新しい食料・農業・農村政策について、新政策を発表しております。この新政策は、農産物の自由化に対応し、中核農家の育成と食糧の自給率の向上を目指したものでございます。理想が高く、館山市の現況に対応させることは難しい点もありますが、市はどのように対応

をしようとし、検討されてきたのか、この点について状況をお聞かせいただきたいと思います。

次に、大きな2項目目の質問に移ります。JRのダイヤ改正と運行の安全並びに通勤快速の乗り入れについて御質問を申し上げます。1つ、JRの企業の合理化と経営の安定については、大いに努力されることはよいことだと思います。しかし、そのことにより、地域の交通の便が悪くなることは困ります。特に、国鉄が民間になったからといって、公共交通の使命と保護を受けている点には変わりがないのですから……。

そこでお伺いをいたします。この7月に内房線が館山まで1本減になっております。また、12月1日の改正では館山―鴨川間が3本減少になっております。中でも、10時10分の鴨川行きの終電車が打ち切られております。したがって、12月1日以降は終電車は8時58分になってしまったのでございます。この館山市にとりましては改悪ダイヤを市長はどのようにお考えになられておられるのか、お伺いをいたします。また、JRはダイヤの採算性を第一に考えて合理化を進めております。館山市を中心に、県南の過疎地域のダイヤはこれからも大幅に減少されることが予想されております。この流れにどのように対処なされようとしておられるのか、あわせてお伺いをいたします。

小さい2番目、内房線の線路の悪い点は目に余ります。私は11月の21日に、カンボジアを訪問するため、朝8時の特急に乗りました。出がけに1時間ぐらいの強い雨が降りましたが、駅に着いたときは雨はやみ、定時に出発しました。ところが、富浦駅を過ぎると徐行が始まり、だんだん悪くなるのでございます。そこで、車掌にこの事情を尋ねると、雨が降ったので、全部の列車が徐行しているので、交換等の関係で詰まっているのだということでございました。これは困ったものだと言いますと、何しろ線路が悪く、危険だから、やむを得ないのですということでございます。車掌は私を知っているようで、辻田さんは内房線が全国的にも非常に線路が悪いので有名なことは知っておるでしょう。政治家がしっかりしなければならないのだから、ひとつよろしく頼むというふうに逆に言われてしまいました。千葉に45分おくれて着きました。定時であれば、千葉で30分、成田に着いて40分の時間の余裕が

あったのですが、1時50分の飛行機にはとても乗れそうもないので、慌てました。幸い千葉駅で駅員がタクシーを手配してくださいましたので、集合時間に30分おくれましたが、ようやくセーフでした。おかげで1万円余りのタクシー代を損失して命拾いをいたしました。私と同じ例は日常茶飯事だといふことが言われております。車掌さんの言い分ではありませんが、関係市町村で本気になって陳情と要望を関係機関に出して、抜本的な改修はできないものか、お伺いをいたしたいと思うのでございます。

3番目に、再三質問してきましたが、通勤快速の館山乗り入れは、一度は実現しましたが、現在では廃止されております。夏季ダイヤでは1往復は通っているのですから、できないことはないと思います。快速が通れば、千葉方面の遠距離の通勤も可能になり、館山市の人口減も食い止められるものと思われれます。また、経済効果も非常に大きくなることはおわかりのとおりでございます。どのような対応をなされておるのか、現況を教えてくださいたいと思います。

次に、大きな3項目目の質問に移ります。館山港の破損の改修と海上交通について御質問を申し上げます。昭和5年に現在の館山港の堤防ができたと言われております。そして、昭和28年5月には館山港は商港に認定されまして、東京湾の入り口港として大きな発展を遂げてまいりました。しかし、現在では堤防が老朽化してしまい、10年前から立入禁止になっております。20年から30年前の映画を見れば、全く情けない状態でございます。館山市の発展は、昔から今でも開発計画を立案するときには必ず海上交通の開発がうたわれております。県下でも数少ない商港が破損し、10年以上も立入禁止になっている現状をどのように思われているのか、そして早期に改修ができないものか、あわせて御質問を申し上げます。

小さな2番目、商港の改修とあわせ、戦前から戦後にかけて観光船橋丸が東京－館山間を、夏季だけでございましたが、就航しておりました。現在では就航していません。いろいろな原因があったようでございますが、2,000トンクラスの船を発着させる場所がないということが紛れもない事実の1つになっておるわけでございます。館山湾は東京湾の入り口で、避難港とし

ても、また東京湾に入港の待合の港としても非常に利用度が高まっております。これらの船を接岸させる場所と施設は現在ございません。館空の幹部や船舶の関係者からよく言われます。大型船が接岸できれば便利であり、地元の経済にも大きな貢献ができるのですけれどもということでございます。市の基本計画には、海上交通の開設を具体化すると書いてあります。また、商港として館山港の施設を整備するとともに、リゾート開発に対応した施設の整備について検討すると述べられております。この現況はどのようになっているのか、御質問を申し上げます。

小さな3番目、沼地域の砂公害について再度御質問を申し上げます。3年6月議会でこの問題について質問をいたしました、再度お伺いをいたします。被害状況に対する実態調査を県と相談して考えてまいりますという答弁が当時ございました。どのようになっているのかお伺いいたします。また、県は本年度の予算で現在張ってある倍以上の砂防ネットを張ることになったわけでございます。しかし、港にネットを張って公害を防ぐことよりも、公害の原因となるものを除去すべきだとして、国の許可がおりなかったそうでございます。国の許可がおりないのはよいのでございますが、地元の被害はそのまま続くわけでございますから、この点をどのようにしてくださるのか、どのようにしようとしておられるのか、この点について御質問を申し上げます。

最後に、4項目目の質問に移ります。環境の美化の面から、ごみ箱の設置について再度お伺いをいたします。現在ごみ戦争と言われているほどごみ問題は都市の悩みでございます。そこで、平成3年12月議会と全く同じ質問をいたしたいと思います。そのときの答弁では、千葉市のごみ箱の例を挙げて、長所、欠陥があるものの、箱によるごみ収集はごみ捨て場となってしまって非常に大きな欠陥があるので、現在館山市が行っているポリ袋による回収の方がよいということでございました。現在市内のある地域では、自主的に箱をつくり、その中にポリ袋で管理しているところは非常にきれいになっております。袋だけのところは動物や鳥により被害を受けて、醜い状況が随所に見られております。この点についてはどのように把握されておられるのか、御質問を申し上げます。

2 番目に、過日文教委員会で出雲市を視察いたしました。まちがきれいなことには大変驚かされたわけでございます。ごみのごみ箱に入れられていたからきれいになっていたのでございます。ごみ箱のごみ捨て場にならないようにすることは簡単でございます。ごみ袋を箱の中に入れればよいのでございます。同時に、館山市でやっている分別回収の協力を市民に徹底的に理解してもらえることによって解決されるものと思われまゝ。さきの議会の答弁では、よい方法を現在も研究しており、常に改善を目指して努力しておることが言われました。私は出雲方式の回収を取り入れをしたらよいと思っております。すなわち、きれいなごみ箱を設置し、その中に現在のポリ袋をそのまま入れる。そのことによって分別が徹底され、回収も楽になり、そして見ばえもよくなる、このように思われるわけでございますから、この点について検討し、採用する方法は考えられないかどうか、この点を御質問申し上げます。

以上、御質問を終わります。答弁により、再質問をさせていただきたいと思ひます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1の小さな第1点目、政府の米部分開放の受け入れについて、館山市議会の決議とあわせての対応はとの御質問でございますが、館山市といたしましては、過去2回の米の市場開放阻止に関する請願、この市議会決議、また全国市長会における決議もあわせまして、十分尊重してまいりたいと考えております。

小さな第2点目の米のミニマムアクセスの受け入れと食管制度についての御質問でございますが、この調停案を受け入れ、輸入することにより、現行の食管法の不都合が生じましたならば、これは国政の場で大いに論議されるものと考えております。

次に、小さな第3点目、昨年農水省でまとめました新農政の館山市での対応についての御質問でございますが、館山市は国の新農政プラン及び千葉県

の21世紀農業展望構想、これを踏まえまして、魅力ある農業経営を育成していくため、生産基盤の整備を柱に、経営の近代化、中核農家の育成と観光農業の推進、また館山市の特性を生かしました地域特産物づくり、これを推進しているところでございます。

次に、ＪＲのダイヤ改正について及び通勤快速についての御質問でございますが、小さな第１点目から第３点目につきましては、いずれも関連がございますので、一括してお答えいたします。館山市の発展にとりまして、鉄道網の整備促進、利便性の向上は極めて重要なものと認識しております。このため、普通電車等の増発、通勤快速の館山への乗り入れ、高速運行化のための整備改良、これなどにつきましては、千葉県ＪＲ線複線化等促進期成同盟、これを通じまして東日本旅客鉄道株式会社に要望しているところでございます。今後とも輸送力の増強や利便性の向上につきましては、県及び関係市町村と一体となりまして要望活動に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第３の小さな第１点目、館山港の破損箇所の改修についての御質問でございますが、御指摘の防波堤につきましては、港湾管理者でございます千葉県において現在調査を進めていると伺っております。なお、改修につきましては、今後千葉県に対しまして要望してまいりたいと考えております。

小さな第２点目、海上交通についての御質問でございますが、海洋性リゾートタウンのまちづくりを進める館山市にとりまして、海上交通路の開設は重要なことであると認識しております。現在千葉県が主体となって進めておりますビーチ利用促進モデル事業の別途構想に含まれております。今後構想の具体化を図る中で関係機関等と協議してまいりたいと考えております。

小さな第３点目、沼地域の砂公害に対する改善についての御質問でございますが、この件につきましては、館山地区連合区長会と関係事業者との間で生活環境保全を目的としました協定が結ばれております。そして、毎年両者による話し合いが持たれております。したがって、事業者による協定の遵守が求められるところでございますので、今後とも協定が守られますよう努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の小さな第1点目、ポリ袋により回収している現況についての御質問でございますが、館山市では現在ごみ袋の指定はしておりませんので、ごみの出し方といたしましてはいろいろございます。搬出場所は整然としているところがほとんどでございますが、地域差が見られます。

小さな第2点目、ごみ箱の設置とポリ袋の併用についての御質問でございますが、ごみ問題は市民1人1人が自分の生活に直結した問題としてとらえまして行動していくことが基本でございます。ごみ箱の設置につきましては、ごみを排出する方々で話し合いの上設置しているところもございますが、館山市としては計画しておりません。今後も引き続きごみの出し方等について指導してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） まず、第1点について再質問をいたします。

館山市の農家戸数は2,552戸と平成3年の統計調査で記されております。その従事者は6,344名となっております。この数字は商業と比べても、商業の場合1,222店、6,099名の従業員でございますから、200名以上多くの農業従事者がいるわけでございます。この数字から見ましても、館山市の農業の館山市政に対する割合は非常に高いことがうかがわれるわけでございます。

そこで、先ほど市長は全国の市長会の決議等々を尊重してまいりたい、ということでごございましたけれども、そのようにひとつお願いをいたしたいと同時に、あと一步進んで、ここでもって、その趣旨に沿った立場から、やはり米の部分開放の受け入れについて賛成とか反対という市長の意思表示はできないものかどうか、この点について伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 米の開放問題につきましては、きょう今ごろ国会で審議されていることではないかと思えます。問題は、ウルグアイ・ラウンドにおきますジャメイン・ドニ議長の調停案——いわゆる6カ年間は関税化は実施しない。ところが、それに附帯条件があるとかないとかいうのが大きな問題となっていると報道されております。私たちが千葉県市長会、全国市長

会で繰り返し、本年度2回にわたり要望しております問題は、米の関税化により日本の農業を破壊してはいかん。自由化によるいわゆる自由貿易を守るのか、日本農業を守るのかという二者択一ではございませんけれども、日本農業を破壊してはいかん。重点は、米の安定的供給を確保するため、基本は国内自給方針を堅持して輸入自由化を行わないという、これが我々の大原則でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） ひとつ館山市長として、やはり館山市民の立場に立った決断と表明を欲しかったわけでございますけれども、全国市長会等の意向を尊重されるということでございますので、ひとつそういうことでよろしく願いをいたしたいと思います。

2番目に、現時点で食糧制度が崩れれば、安い米が輸入されて、自給率の低下は目に見えるようでございます。一部農産物の自由化が先年なされたわけでございますけれども、このときから減反が始まり、現在では自給率が29%までに下がっていると公表されております。これ以上自給率が下がれば、日本の農家はなくなってしまうわけでございます。雇用問題とあわせ、地域経済は崩壊してしまうおそれがございますけれども、先ほど申したように、館山市は農業に対するところの依存度が非常に高いわけでございます。輸入によってその価格差がアメリカとは7倍、タイとは10倍と言われているわけでございますから、もう全く太刀打ちできない。こうなった場合に、館山市の場合6,000人の従業員と2,500戸の農家の生活はどうなるか、この雇用問題等大変な問題が出てくるわけでございますから、この点については十分市としても対応をなさらなければならないと思いますけれども、この点についての対応策は考えられておるのか、これからどうしようとしているのか、この点についてお伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 自給率の問題から入りまして、いわゆる農産物の輸入化が進んだ場合に館山市の農業がどうなるか、それに対する対応とい

うことでございますけれども、確かに米の輸入につきましては識者の間でも議論が分かれておるように私ども承っております。輸入化されれば国内農家は壊滅するというお話もございますし、いや、そうではない。かえってまた足腰の強い農業ができるんじゃないかというふうな意見がございまして、私どもとしても判断がつかねるというようなところがあるわけでございますけれども、いずれにいたしましても、国の新しい新農政、それから県におきましても21世紀を展望する農業というふうなことが打ち出されておるわけでございます。最終的には足腰の強い農業または農家経営の確立ということが最も大事なことでないのかというふうに考えておるわけでございます。したがって、その場合の最も基本的な生産基盤の整備を柱に、高密度、高付加価値の農業を目指しまして、近代化施設の整備、また立地を生かしての観光農業の推進、拡大等を図っていききたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点については議論が尽きませんので、これでおやめさせていただきますけれども、大変な事態になっておることだけは御理解いただいて、お互いに知恵を出し合って、館山の農業と、そして産業を守っていくようにいたしたいと思っております。

そこで、農業委員会にお尋ねしますが、後ほど飯田議員の方からその内容について御質問があらうかと思っておりますけれども、私はここで2点だけお伺いいたします。まず第1点は、米の自由化がもう10年ぐらい前から騒がれておりまして、特に二、三年来急速に具体化が課題にのっているわけでございますけれども、この米の自由化によるところの館山の農業がどのような影響を受け、どのようにしていかなきゃならないかということについて農業委員会でもって論議、研究されたことがございますでしょうか。具体的に何年度に何回ぐらいどのような形でということがわかりましたら教えていただきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 農業委員会事務局長。

◎農業委員会事務局長（小倉 孝君） 今の問題についてお答えを申し上げます。

たいと思いますが、米の自由化は御承知のように、特にここへきてミニマムアクセスでしょうか、いろいろ問題になって、先ほど市長からも答えられたように、きょう恐らくそれが決着といいますか、決まるように聞いております。

そこで、そういう農政問題についての話し合いが何回なされたかというふうなことです。特にその問題については、委員会といたしまして県の農業会議の方に建議がされていまして、これはほとんど毎年やられていることですが、県は全県下の農業委員会からまとまった建議書をもとに、さらに知事に対して建議をされているというようなことでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） わかりました。農業委員会としてもひとつよろしく取り組みと対応をお願いしたい。農業基本法によりまして、農業委員会というのはその地域の農政問題について責任を持って政策を推進するということになるわけでございますので、その点についてはまた後ほど飯田議員からも詳しい質問があらうかと思えますけれども、わかりました。

2番目に、これは非常に重要なんですけれども、昨年農林水産省から発表されました新農政——これは21世紀を目指した農業政策の基本でもって、具体的に大きくは5項目ですか、出ておるわけでございますけれども、この新農政についての学習会なり、その議題が農業委員会において上程されたことがあるのか。また、審議や議題でなくても、協議会なり研究会等でもってこの新農政についての検討が——昨年以來まだ1年そこそこでございますけれども、どのようになされたのか、同じくお伺いしたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 農業委員会事務局長。

◎農業委員会事務局長（小倉 孝君） お答えを申し上げたいと思えます。

新農政についての話は、まだ具体的には委員会としては話し合うというか、そういう機会はありませんでしたけれども、そういう話が出てきておりますから、近い将来は農政問題はかなり突っ込んで検討してまいりたいというふうなことで考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 農水省ないし政府は、前回の自民党政府時代につくり上げたものでございますし、細川新政権もこの新農政方針に従って21世紀の農業は抜本的に改革していくんだというわけでございますので、館山市でも十分この意向に沿った農政を実現することによって国、県の補助も大きくもらえるわけでございますから、この波に乗れるようにひとつ御検討のほどをお願いいたしたいと思います。

次に、大きな2番目でございますけれども、館山―東京間の内房線は、大正8年の5月の24日に現在の館山までが開通したと言われております。以来、線路等の抜本的な改修がほとんどなされておらずに、その都度部分的な改修に終わってきておるので、もう相当――七十四、五年になろうとしているわけでございますから、これ以上はもう手を加えてもむだだということが言われておりますけれども、このような点についてはどのようにお考えになり、この点については陳情をなされておるのか、この点についてお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 抜本的な施設改良ということでございますけれども、我々が最も求めているのはいわゆる複線化の問題であるわけでございますけれども、これにつきましては、千葉県JR線の複線化等促進期成同盟会の中でこの複線化の問題を強力に進めておりまして、この時点で当然のことながら施設改良等を含んだ抜本的な線増というものがなされるものと考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 複線とあわせてさらにひとつ御努力をお願いいたします。

次に、鉄道が先ほど申したようにストップされるというんですか、そしてそのダイヤが中止になる、何時何分の汽車はもう運転中止というふうなことが年何回かございます。こういったところの中止の回数、さらには、具体的には出ていないんですけれども、10分以上おくれる列車、また30分以上おく

れる列車というのが非常に多いようでございまして、これはなかなかそれに
ぶつからないとわからないわけでございます。私は月に5回か6回千葉、東
京へ行くんですけれども、雨の時期だとか、そういうときにはなるとよく10分、
20分おくれて、特急が払い戻しになるかどうかと思うとなかなか――1時間
ぐらい過ぎないとだめだそうでもって、残念ながら普通列車より遅く着くこ
ういうことがたびたびあるわけでございますけれども、この点について
調査をしておりますか、それともまた調査をJR等をお願いしておるのか、
この点についてお伺いします。

これは、このように頻繁に遅延とかストップがあるわけでございますから、
この実態調査を――被害を受ける市民の立場から市が把握して、何年の何月
から何年の何月までの間にこういうような状況であったという数字を示して
国、県に陳情すれば、迫力も出てくるし、その切実さもわかっていただいて、
これは単にJRの問題じゃなくて、公共交通ということでもって、内房線を
何とかしなきゃならないだろうという気になって、国もJRに補助金等を交
付して実現が早くなろうかと思うわけでございますけれども、こうした点に
ついて調査なりそういうものを行っておるのか、これから行い得るでしょ
うか、この点についてお答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 気象条件等による運休については、常に特に
鋸南以南の市町村が一緒になりまして要望しているところでございますけれ
ども、実態につきましては把握をいたしておりません。今後とも実態把握を
して要望してまいりたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） これまで新聞等、またその他から、市長さんを中
心にしまして、議会の議長等がJR当局に陳情されておるのはよくわかって
おります。大変なことだと思いますけれども、あれだけ陳情して、なかなか
決め手が出ないということにつきましては残念でございますので、やはり陳
情するからには、今言ったような証拠というんですか、具体的なやっぱりそ
ういうのを持って行って突きつけてやるというような、こういうことも考え

ていかないとなかなかちが明きそうもないので、こういった点もひとつ参考にして、もうちょっと——本当にこうなんだからという数字と証拠ですか、こういうものを突きつけるような形で——ちょっとひどいですがけれども、そこら辺まで踏み込んでひとつお願いをいたしたいというふうに思っております。

快速の面でございますけれども、今回のダイヤの改正等を見ましても、年々君津から東京、横須賀から東京の快速の本数はダイヤの改正ごとにふえておるんです。その逆に、これがふえるごとに君津以南、勝浦以南のダイヤが減っていく、こういう傾向でございますけれども、こうした中でもって、とにかく館山、木更津、東京、そして横浜、横須賀へという東京湾循環鉄道のネットに乗るということは、これは館山市にとって大変なことだと思うわけでございますけれども、この快速を何が何でも1本通すということはできないものでしょうか。そこら辺の感触と見通しについてはどのように考えられておるのか、ひとつお願いをいたしたい。館山はますます悪くなるようで、残念でならないわけでございますから、そういった点からひとつ御答弁をお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 快速の乗り入れにつきましても、通勤圏の拡大等の問題も含めて鋸南町以南の安房郡市が一体となって要望をしているところでございますけれども、やはりJRの方は財政面の問題と、それからやはり混雑率といいますか、特にそういう乗客数の問題等でなかなかこちらの方に手が回らないというのが現状でございます。したがって、今後とも地域の振興に努めながらひとつそういうふうなまちづくりをしてまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点については何度も質問しておりますので、ひとつお願いいたします。

私が聞くとところによりますと、木更津以北の通勤列車は満杯でもって、どうにもならないのもって、館山の方から1人でも2人でもお客が来ると、

余計またそれが満員になって大変なんだから、遠慮してもらおうというふうなことをジョークでもない、本音のようなことでもってJRの幹部の方から聞いて、館山はよほど真剣になって、けんか腰でやらなければなかなか通れませんよというふうなことも言われておりますので、そういった点もひとつ考慮いたしまして、切り捨てられたんじゃないと思いますから、1人でも2人でも——迷惑かも知れませんが、鉄道が満員になって、さらに満員になるということは。しかし、館山にとってみれば通してもらわなきゃ困るわけでございますので、今の室長の答弁のように、ひとつ今後も根気よく陳情、実現方をお願いいたしたいと思います。

3番目に、館山港の状態でございますけれども、市長の答弁でもって、努力されているようでございますけれども、この館山港は先ほども申したように昭和5年にできたんだそうでございます。このときには館山町として建設したそうでございます。そして、館山栈橋も橋丸も館山町としてつくって、そして栈橋会社に委託してやってきたという経過があるそうでございますので、それがさっきも申したように昭和28年に初めて国の商港の指定を受けて館山市から国に移った、こういうことでございますから、本来であれば館山の港。我々も昭和8年生まれでございますから、生まれたときから館山の港だと思っておりましたので、今国の管理だそうでございますけれども、館山市のやはり港という観点に立って、ひとつこの解消を県、国に対して陳情をしていただきたいというふうに思います。

2番目に、船舶の停泊による経済効果の問題については、かつて自衛隊の幹部をなされておまして、市議会議員に当選した古賀議員がこの議会で熱心に意見を述べられて、栈橋ができれば自衛隊の船も停泊して、そしていろんな荷物の出し入れ、買い物もするし、また隊員の慰労もできるし、大変な経済効果があるということでもって、非常に議会の名物的な発言が繰り返されたわけでございます。このように自衛艦なり大型商船が——1万トン以上というのは無理にしても、5,000トンクラスぐらいのものが停泊できる港ができれば、館山市の経済効果、また新しい道が開かれると思います。この古賀議員から出た質問は非常に私は立派だと思っておるし、尊重すべきだと思

っておったんですけれども、こういう観点で、館山市に停泊する港をつくることについて研究調査等はどのようになされてきたのか、お伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） さきの全員協議会の中でビーチ利用促進モデル地区の指定という問題をお話いたしました。それから、同時に港湾関係については別途構想区域ということになっておりますが、この問題につきましては、平成7年度にその調査をいたすべく私どもも要望しておりますし、国もその方向で進んでいるところでございます。これは基本的には県事業で行うわけでございますけれども、ただ昨今の財政事情等もございまして、特に港湾関係につきましては予算の査定の段階がCランクということでもって、非常に今厳しい状況でございますけれども、その方向で鋭意努力をいたしてまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） わかりました。古賀議員の発言は議会だけのものでもってということは余りにも情けないような気がしますし、私は古賀さんが言ったからということじゃございませんけれども、真剣に考えて、どのぐらいの経済効果が出てくるのか、どのぐらいの船舶が接岸できるのか、そしてそのことによっていろんな物資だとか、乗組員の慰安、こういうものに対する経済効果はどのぐらいかというぐらい、ある程度専門家の調査なり、そういうものはなされてよかったんじゃないかと思うわけでございまして、今後そういう点をひとつよろしく願いたいと思います。

それからもう一つは、この基本計画——庄司市長さんの自信作でございすけれども、この中に海上交通の開設の具体化ということが出されているわけでございますけれども、現在どのようなところまでどのような形で取り組まれているのか、お答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 海上交通の開設につきましては、過去何回か本会議で御質問をいただいているわけでございますが、抽象的と申し上げます

か、いわゆる海上交通の必要性、多様な交通手段の確保ということで、十分市としても認識はいたしておるわけでございますけれども、いわゆる海面利用者と関係者等の協議がなかなか進まないというようなことで、なかなか具体化に向けての動きというのはなかったわけでございますが、ただいま公室長の方からもお話のございましたビーチ利用モデル事業の関連事業といたしまして、従来は整備手法も、それから事業主体というようなものも明確ではなかったわけでございますが、今回はこういう基本構想のもとに、県事業というような形で、海上交通のいわゆるバス等はどこが事業主体になるかというようなことはまたこれからの問題になろうかと思いますが、このような事業で実施できるというような目安がついてきた。今後平成7年度から県との協議が始まるわけでございます。当然利害の関係いたします諸団体との協議も進めるわけでございます。そういうふうな中で具体化を進めてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この港湾の整備と海上交通というのは市の基本計画にあるわけでございます。ビーチ計画はビーチ計画で、これは関連はあるかと思えますけれども、本質的に違うわけでございます。前の議会におきましては秋山議員も海上交通の重要性と方向について質問されておったわけございまして、非常に心配されているわけございまして、私も同様でございまして、今のように基本構想にのせたからには、それは市長が責任を持って、市の職員がこれに協力して実現しなきゃならないと思うんです。ビーチ計画、その後に出てきて、あれは海岸の整備だけですから、今みたいな形では筋違いになります。市の権威がなくなりますので、そこら辺については十分わきまえて、この港湾の整備には、また海上交通の開発については努力していただきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩し、午後1時再開いたします。

午前 11 時 52 分 休憩

午後 1 時 01 分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました6点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、南房総広域水道事業についてであります。南房総広域水道事業は、県工業水道事業の見込み違いによって生じた余り水を安房郡市及び夷隅郡市の17市町村の共同事業として導水しようとするもので、私は水質の安全の点で問題があること、また財政力の弱い安房、夷隅の市町村の実情から財政的に無理があることを指摘し、反対をしてまいりました。そして、水質の点でも事業費の点でも格段にすぐれているものとして、君津の豊英ダムの水の利用を提案し、主張してきたところであります。今回図らずもこの事業費の点で、この南房総広域水道事業は約 200億円も当初の計画よりも増額となることが明らかになりました。580億余円から 779億余円になるというのでありますから、34%もの増額、見込み違いということになります。これは市財政への影響も深刻なものがあると思われ、大変重大な問題であります。

そこで、市長の所見をお尋ねをいたします。まず、200億円も事業費が膨らんだ経過の説明を求めます。9月の市議会で私は広域水道のことが事業費の点でも、また通水の時期の点でも心配だが、どうなのかと質問をしたばかりでありましたが、この心配が的中したとの思いであります。市長は広域水道議会の議員として、また運営協議会のメンバーとして情報を事前に知り得る立場にあったかと思うのですが、私たちには全く突然のことでありました。御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、これらの事業費の追加によって、館山市の財政負担は具体的にどのようなになるのか、御説明をいただきたいと思います。

また、今後の市の財政運営上、多額の出資金は無理があると思うのであり

ますが、どのようにお考えでありますか。

さらに、事業の今後の見通しはどうでありましょうか。二度あることは三度あると言います。今回は事業費のうちでも施設整備費だけが増額されたもので、水源費は据え置かれています。こうした点も含めて、出資金の新たな増加ということはないと考えられますか、いかがですか。

今回の事業費の増大は、その道のプロの仕事とはとても思えません。当初計画では、送水管布設費は 194 億余円でありましたが、今回の増加額は 135 億円で、これは 70% もの増加であります。どうしてこんな見積もり違いが出るのでありましょうか。これは、当初の計画額を意図的に低く見積もり、17 市町村の事業への賛同と参加を得て、一たん事業が始まってしまえば後には引けまいというこそくなねらいが隠されていたのではないかとの思いが感じられるところであります。いずれにしても、この見積もり違いについてだれがどのような責任をとるのか、その責任をはっきりとさせなければなりません。結果的に 17 市町村の議会と住民をだましたことになるのでありますから、ぜひはっきりとさせていただきたいと思います。

私は改めてこの事業は反対であります。既に送水管布設工事の 6 割が完了する等、事ここにまで至ってはそうとばかりは言っていないことと存じます。しかしながら、今後のこの事業のあり方などを考える上でも、原点に立ち返って問題を整理する必要があることと思います。重要な点は、地方自治法第 2 条第 6 項は広域にわたる上水道事業は県の仕事だと明記していることであります。もともと 17 市町村にも及ぶ広域上水道事業を市町村の共同事業とすることに無理があるのであります。しかも、いずれも県内では財政力の乏しい市町村であります。千葉県の上水道計画を改め、南房総広域水道事業の県営事業化を求めるべきだと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、この事業計画では、県南地域のリゾート開発に伴う水需要に対応することが重要な要素となっておりました。ところが、このリゾート開発は一時のブームが去ったと言われています。この水道事業は水需要量の見込みの点でも大幅な見込み違いが出てきているものと思うのでありますが、リゾー

ト関連の給水量は幾らか、その見通しについてはどのようにお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第2点、ホームヘルパーの利用率についてお尋ねをいたします。ホームヘルパー制度は、言うまでもなく在宅老人福祉施策の中核的な事業で、既に現在ではほとんどの市町村で実施されております。制度としては全国的にはほぼどこでも実施されているという状況であります。しかし、その実施の中身になりますと、各市町村の格差が如実に出てきているのも現状であります。それぞれの市町村がこの事業を文字どおり在宅老人福祉の中核的事业として位置づけ、それにふさわしく力を入れているのかどうかが問われているのであります。厚生省は、この在宅老人福祉事業の進捗度を知るために、在宅老人福祉にかかわる各指標を数値化し、都道府県、指定都市における老人保健福祉施策の現状を発表しております。この全国的な指標から見て、館山市の老人保健福祉施策の現状をどのように評価するのか、進んでいると言えるのかどうか比較することが可能であります。

この中にホームヘルパーの利用状況についての指標があります。老人人口100人当たりのホームヘルパーの年間利用日数を指標とするもので、平成元年度の全国平均は42.2日でありました。館山市の年間利用日数はこの全国平均に比べて極めて低いのではないかと思いますのでありますが、どの程度となりますか、具体的に数字でお示しをいただきたいと思います。

次に、寝たきり老人に対するホームヘルパーの派遣割合は全国平均で8.8%と言われます。館山市では寝たきり老人への派遣割合はどの程度となっておりますのか、具体的にお示しをいただきたいと思います。

次に、ホームヘルパーの利用率が低いとすれば、それはどこに原因があるとお考えでしょうか。市民にとって手続が面倒で利用しにくくなっていたり、また制度について周知されていないために、あるいは誤解があったりということがあってはならないことと思います。ホームヘルパーの派遣対象の把握について、申し出があれば対応するというだけでなく、病院と連携を強め、脳梗塞などで障害を持ったお年寄りの情報を的確に把握し、退院と同時に直ちにホームヘルプサービスが開始できるようにするとか、あるいは特別養護

老人ホームの入所希望が寄せられたなどの時点でホームヘルパーの派遣が直ちに対応できるようにすると、病院や施設との連携を強めていく必要があるのではないかと思うのでありますが、いかがお考えでしょうか。

また、現在のホームヘルパー制度では、日曜等の休日や夜間などの時間外の派遣は行われていません。しかし、休日や時間外にもこれらのサービスが受けられるとすれば、病院や老人ホームに入っている方でもかなりの方が自宅で生活できるようになるだろうと言われます。厚生省の老人福祉計画課長は、特老ホーム入所の2ないし4割の方は、地域に在宅福祉支援が完備していれば入所しなくても済むだろうと述べております。現在の在宅福祉の水準を大幅に引き上げていくことが必要だと思うのであります。それがまたホームヘルパーの利用率を向上させていくことにもなるものと思います。そこで、ホームヘルパーの休日や夜間の派遣を進めていかなければならないと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありましょうか。

次に、市のホームヘルパー条例では、派遣回数や時間数について、派遣対象の状況等により市長が別に定めるとなっています。これを受けて、施行規則では、原則として1世帯当たり1日4時間、1週18時間程度の範囲内で派遣対象家庭の実態に応じ市長があらかじめ定めるとなっています。しかし、介護型のホームヘルプサービスを想定した場合、こうした規定の仕方は実情に沿わなくなる場面も多いことと思います。厚生省の発行しておるホームヘルプ事業運営の手引では、サービス量の決定について、当該老人の身体状況、世帯状況等を十分検討し、適切に決定されるべきで、個々の高齢者へのサービスの上限を決めるべきではないことを強調しております。こうした規定は不要と思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

次に、大きな第3点であります。コミュニティセンターのピアノ等の使用料の無料化についてお尋ねをいたします。コミュニティセンターには勤労青少年ホームと中央公民館がありますが、例えば音楽室の利用について、条例上、目的内使用は無料ですが、ピアノの使用は附帯設備とされ、目的のいかんを問わず、1回当たり1,540円となっております。合唱サークルの練習にピアノは不可欠であり、練習のたびにこの使用料を負担しなければな

りません。この規定は合唱サークルなどの利用についての阻害要因となっております。附帯設備使用料を徴収するとの同様の規定は陶芸用炉や七宝焼用炉についてもあります。陶芸用炉については時間当たり 200円、七宝焼用炉については時間当たり30円と決められております。附帯設備使用料として料金を徴収するのはこの3つであります。なぜ使用料を徴収するのでありましょうか。市民のサークル活動などの文化活動は原則として無料であります。附帯設備使用料として使用料を徴収するなどということは、文化、福祉都市を標榜する館山市にとってふさわしいこととは思えないのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第4点、平和事業についてお尋ねをいたします。先日市役所を訪れた折、ちょうど平和都市宣言の額を玄関ロビーに掲出するところに出くわしました。なかなか立派な額であり、これを通してさらにこの宣言の趣旨が多くの市民に周知されればと願わずにはられません。その後、市内中学校やコミュニティセンターや市民センターなど9カ所に掲出されたということでもあります。この宣言の趣旨を体してどのような平和のための事業をしていくのか、今後の市政に生かしていくのかは重要な課題であります。そうした点から私は、終戦50年を再来年に控え、国民的な体験の中から二度と戦争を繰り返してはならないとの決意を新たにしたのでありますが、肝心のその体験そのものは必ずしも伝え切れているというものではないと思います。伝え続けなければならないことをきちんと伝えていくことが、次の世代に伝えていくことが大事なことではないかと思うのであります。この点で、終戦50年を前に若い世代に戦争を伝えていくことは重要と思うが、どのようにお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、館山市は海軍の軍都として有名でありました。事実、館山航空隊の基地もありましたし、そのほかにも海軍砲術学校や洲崎航空隊などもありました。この秋に高校の先生方がコミュニティセンターで学徒出陣50年館砲、洲空展を行ったところ、遠く県外からも新聞記事を見て来られたという方がかなりいたということでありました。そして、これらの企画を通して、かつての館砲、洲空の実態が少しずつ明らかになりつつあります。しかし、50年

も前のことであり、亡くなっている方もかなりあります。今伝えなくては、永久にやみに閉ざされていくことも多くあるものと思います。そこで、館山市の平和事業として、軍都館山がどのようなものであったのか、具体的に調査してみてもどうかと思うのであります。この地に生きる者として、空白となっている郷土の歴史を明らかにしていくことでもあろうかと思ひます。

次に、平和都市宣言は、日本国憲法の掲げる崇高な理想を深く自覚し、武力による紛争をなくすとともに、核兵器の廃絶を訴え、世界の人びととともに手を携えて、かけがえのない地球の恒久平和実現のため、ここに館山市を平和都市とすることを宣言しますと日本国憲法の理想に言及しております。私はこの日本国憲法の理想を生き生きと子供たちに伝えたのが文部省発行のこの「あたらしい憲法のはなし」であったと思うのであります。この本は1947年、昭和22年8月、文部省によって発行され、全国の中学生在が1年生の教科書として学んだものであります。日本国憲法施行直後に発行されたこの本は、子供たちに日本国憲法の理想をわかりやすく伝えようとするもので、今読んでもその当時の息吹が生き生きと伝わってくる思いがいたします。聞くところによりますと、流山市ではこの本を子供たちへの副教材として採用したとのことですが、平和教育の教材として極めて適切なものではないかと思うのであります、いかがお考えでありますか。

大きな第5点、学童保育の新年度からの実施についてお尋ねをいたします。厚生省は児童福祉法を改正し、学童保育を法律に明記する方針とされるが、市として実施するお考えはどうでありましょうか。学童保育の実施についてはこれまでたびたび質問をしまいましたが、市として前向きに実施の方向など答弁をしまいましたが、残念ながらいまだ実施となっております。女性の社会進出とも相まって、学童保育の制度化を求める声は広範に広がっております。厚生省は児童福祉法を改正し、学童保育を法律に明記する方針とのことが報道されました。それだけ社会的な必要性が認められてきたことだと思うのであります、市として公的な責任において事業を実施していくお考えはいかがでありますか。

大きな第6点、宮城市営プールの更衣室等の施設の改修についてお尋ねを

いたします。脱衣場などのロッカーのかぎの多くが壊れております。洗面台や流し台はタイルがひび割れております。木造で老朽化した施設であります。その荒れ方はかなりの状態であります。この宮城の市営プールは、戦後の日本水泳を担った古橋や橋爪等、戦後の日本人に勇気と自信を与えたこれらの選手が練習をした由緒あるプールだと聞いております。そういう意味では記念すべきものであります。ところが、残念なことに老朽化に任せておくというのはどうしたものでありましょうか。改築等を検討していないのでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、南房総広域水道事業の事業費が増額になる経過についての御質問でございますが、現行計画事業費は昭和63年度単価による積算であり、物価上昇分の増額が77億 6,000万円生じ、また大多喜浄水場等の一部施設の変更及び送水管の施工条件等の変更による増額が121億 1,100万円生じ、合計198億 7,100万円の増額を生じたものであります。

次に、小さな第2点目、館山市の負担はどのようになるかとの御質問でございますが、見直しによります増額事業費の負担が館山市は17億 6,900万円になります。

小さな第3点目、多額の出資金が財政に与える影響について御質問でございますが、御承知のとおり、現在の財政状況は大変厳しい状況でございます。しかし、南房総広域水道用水供給事業は館山市の重点施策として推進しているところでございます。今回の増額は館山市にとりまして大きな負担ではございますが、全額出資債を財源としております。したがって、公債費比率、起債制限比率の動向に十分配慮しつつ、財政を運営してまいりたいと考えております。

小さな第4点目、事業の今後の見通しはどうかとの御質問でございますが、今回の見直しに当たりましては実績をもとに精査しておりまして、今後急激

な物価上昇など外部要因がなければ、広域化施設整備費の大幅な増額はないと伺っております。

次に、小さな第5点目、事業費計画についての責任はだれにあるかとの御質問でございますが、長期間に及ぶ事業であり、物価上昇、浄水場等の一部施設及び送水管の施工条件等の変更により、今回の変更が生じたわけでございます。

小さな第6点目、改めて事業の県営化を求めるべきと思うがとの御質問でございますが、水道事業は水道法第6条第2項によりまして、原則として市町村が経営することになっております。しかし、南房総広域水道用水供給事業は導水管及び送水管の延長が長大であり、建設費がかさむため、県民の生活用水の負担格差是正の観点から、特例の県費補助を受けているところでございます。

小さな第7点目、リゾート関連の給水量は幾らか、その見通しはとの御質問でございますが、リゾート関連の給水量は約4,000立方メートルを見込んでおります。また、リゾート開発計画につきましては、都市計画法に基づく開発申請のための作業が進められております。

次に、大きな第2の小さな第1点目、市のホームヘルパーの利用率は全国平均に比べてどうかとの御質問でございますが、さきに実施いたしました高齢者ニーズ調査において、家族による介護希望が多い結果になっております。これは当地域の特性によるものと思われれます。

小さな第2点目、寝たきり老人への派遣割合はどうかとの御質問でございますが、現在34.4%でございます。

小さな第3点目、派遣対象の把握について、病院あるいは施設との連携はとの御質問でございますが、病院、老人保健施設、老人ホーム及び保健婦との緊密な連絡のもとに派遣対象家庭の把握に努めているところでございます。

小さな第4点目、休日や夜間の派遣についてとの御質問でございますが、在宅福祉の推進を図る中で必要であるとは認識しております。今後派遣体制及びマンパワーの確保を含め検討してまいりたいと考えております。

小さな第5点目、派遣回数などについて市の規則はとの御質問でございます

すが、事業を実施するに当たりまして、派遣体制の目安として、国の指針に基づく数量を示したものでございまして、運用におきましては、派遣対象家庭の実態に即し、弾力性を持たせて実施しております。

大きな第3のコミュニティセンターに関する御質問は、教育長より答弁申し上げます。

大きな第4の平和事業についての小さな第1点目、終戦50年を前に、若い世代に戦争を伝えていくことは重要と思うがとの御質問でございます。私も戦争の悲惨さや平和のとうとさを伝えていくことは極めて重要なものと考えております。このため、本年12月1日に、多くの市民の方々に平和のとうとさを再認識していただくため、平和都市宣言文を市庁舎、中央公民館等市内9カ所の公共施設に掲示したところでございます。今後とも平和意識の啓発に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、海軍砲術学校や洲崎航空隊基地などの史跡を調査してはどうかとの御質問でございますが、1つの御意見として承っておきます。

大きな第4の小さな第3点目、「あたらしい憲法のはなし」につきましては、教育長より答弁申し上げます。

大きな第5、学童保育についての御質問でございますが、公営で実施する場合には場所、指導員の確保等の問題がございますので、早急に実施することは難しいと考えております。父母の会などの団体で自主運営が可能であれば、補助金制度の設置を検討してまいりたいと考えております。

大きな第6、宮城市営プールの問題につきましては、教育長より答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな第3の小さな第1点目、コミュニティセンターのピアノ等の使用料の無料化についての御質問でございますが、現在中央公民館及び勤労青少年

ホームにあるピアノ、陶芸用炉、七宝焼用炉については、設置以来使用料を徴収しておりますが、利用団体からも要望がありますので、県内類似施設の実態を調査し、今後検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の小さな第3点目、「あたらしい憲法のはなし」を中学生の副教材として使用してはどうかとの御質問でございますが、憲法についての学習は小学校6年生の社会科及び中学校上級学年の社会科公民の分野で指導しております。児童生徒は教科書及び学習用各種資料を活用しており、この本についてもその中の1つの指導資料として検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第6、宮城市営プールの更衣室等の施設の改善についての御質問でございますが、市営の社会体育施設につきましては、温水プール、東市民運動場体育館の改修工事を行う等、施設の整備に努めてまいりましたが、今後も宮城水泳プールの施設改修も含めまして順次計画的に整備してまいりたいと考えております。

以上。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まず、南房総広域水道の問題でありますけれども、せんだって全員協議会で御説明があったわけでありまして、端的にお伺いいたしますが、この198億円、約200億円の今度の事業費の増加ということについて、市長としてはやむを得ないこととしてこれを容認なさるお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 水道事業の問題は、これは市民生活の根本にかかわる問題でございます。施策としてもどうしてもやらなきゃいけない問題でございます。現在未給水地域を含めまして、館山市の第3次拡張事業、三芳水道企業団の第2次拡張事業、これを総括しまして、この事業をやらなければ水問題は解決しないと考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） その意見はその意見としてわかりましたが、要す

るにこの問題は先日の12月6日に行われた関係市町村長会議で決着を見た問題だという認識なのか、これは報告であって、今後各市町村の負担の問題ですとか、あるいは県の負担の問題ですとか、こういう問題も含めて議論の出発点が据えられたという認識を持つのか、そこはどちらなんですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この南房総広域水道用水供給事業につきましては、過日の運営協議会におきまして、先ほどお話ししましたような、また過日の全協でお話ししましたような大幅な増になったわけですが、昭和63年以来の長い年月を経て、しかも物価の問題あるいは工法の問題等、やむを得ないものであると認識したわけですが、これをどうしても受けてやらざるを得ないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） やむを得ないことだと簡単に認めてもらっちゃうと困るんですけども、これだけの金額のものが出てきて、端的に言いましたけれども、送水管の布設費——ずっと今送水管を布設しています。これは63年のときの計画より70%ふえているんです。194億円だったのが135億円ふえます。これは確かにいろんなことがあるんでしょうけれども、物価が上がったとか工法が違っただとか、いろいろ説明がされますけれども、そんなことはプロの仕事としてあり得ないことです。当然それらの工事についてはどういう条件のもとで行われるということがあるわけですから。当然じゃないですか。それでなければこんな事業計画としての案を出す意味がないじゃないですか。今つくればこれだけですよとかということを書いて、実際にその地盤の調査、何の調査とかやっていなかったから、やったらうんとかかっちゃいましたというんじゃ、計画も何もならないじゃないですか。70%も——これ135億円ですから、我々ちょっと信じられないんです。そう簡単にああそうですかというふうには言えないんです。市長さんがそこで、この館山市の代表として、議会ではしょうがないですねというふうには考えられちゃ困るんです。とても納得できる話じゃないです。大体市の仕事でこんなことになったら大変です。70%もなったら大騒ぎです。これはどうしても今のお話では納得で

きませんけれども、市長さんはどういうふうにお考えになっているのか。

それと、重要な問題だと思うんですけども、この見積もり5万 5,000トン、このうち1万 2,000トンが館山市営水道ですか、7,000トンぐらいが三芳水道かと思うんですが、平成8年度に送られてくるということになるわけです。館山の市営水道で今どれくらい水が足りないんですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 特に館山の場合、夏の時期は非常に水の確保に苦勞しているわけですが、ふだんにおきまして、加入者から御希望がありまして、1戸今13ミリ1つですよという、こういうようなことでお願いしているわけで、今後の水需要は多くなるのではなからうか、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 市営水道の1日の給水量何トンですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 平成4年の実績におきまして、1日最大で1万 7,601立米の給水をしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 1万 7,000ですか。平均では1万 1,406トンです、平成4年度決算。1万 2,000トンないんです、1日平均。最大のときには1万 7,000トンあるかと思えますけれども、それで館山市営水道が平成8年8月ですか、このときに送水を受ける、このトン数は何トンですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 平成8年の予測といたしましては、最大で7,710トン、1日平均受水量といたしましては4,800立米見当でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そこでお尋ねするんですけども、この市営水道

なり各末端事業水道は送水管で5万 5,000トン送り出すわけです。この5万 5,000トンの水という問題は、それぞれ責任水量制ということの中で、各水道事業体が一定の量を受水するという事ではないというふうに理解しているのですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 一応その水量をもとに、南房総広域企業団が料金の検討のもとにしているところでございます。ただし、その水量につきましては時期あるいは曜日等によって違いますので監視していこう、こういうところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そういたしますと、平成8年の時点で4,800トンを受水しないと南房総広域水道事業体の方が大赤字になってしまう。したがって、この4,800トン、この前後の水量を館山市は実際にそれだけの水の需要があるのかかわらず受水をする、そういう意味で理解しているのですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 受水水量につきましてはこういうことで計画されておりますが、実際に受水に当たりましてはまた構成団体等で協議していくことになるのか、こういうふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 構成団体で協議するといったって、実際に今の景気の動向とかいうことからすると、これだけの急激な水の需要の伸びがないのは明らかです。だとすれば、この広域水道企業体、みんな水はそんなに要りませんよということになったら、財政的に破綻するのは明らかじゃないですか。これはもう共同事業で行うことの基本的な問題です。一定の水量を、各水道企業体が一定量を受水する、そういう前提で話ができているんじゃないのですか。それでなければあらゆる損益の見通しや何か予定が立たないで

しょう。この辺いかがなんでしょうか。実際に水がそんなに要らないから受水しなくていいですよという、そういうことは許されるんですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 受水量につきましては、計画に沿って進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、リゾート関連で市営水道は4,000トン見込んでいるとお話がありましたけれども、全部で1万2,000トンぐらい——ちょっと細かい数字はあれですけれども、平成8年度で4,800トンですか、これを受水をするということでありますけれども、この水需要の見込み、これはもう見込みが相当狂ってきたというふうにお考えになっておりませんか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 現在のところは当初計画でそのとおりに考えているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この計画をつくったときの平成1年から10年までの人口の伸び、9.9%ということで見込んだんじゃありませんか。そして、1日1人最大給水量を700リッターと見込んだんではありませんか。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 人口が10年間で約1割です。9.9%伸びるだろう、こういうことを前提にして水の使用量の見込みをつくった。もう前提崩れているじゃないですか。伸びていますか。

それから、1日最大給水量700リッター、今1日の1人平均の給水量、三芳水道の資料によりますと、平均給水量ですけれども、255リッターです。

水は文化のバロメーターだなんていうような言い方をしますけれども、それにしてもせいぜい 700リッターという見込み — 最大ではありますけれども、これは倍ぐらい1人当たりの使用量が伸びるだろう、現在の水準からだ、そういう数字だと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 館山市水道の場合、平成4年度実績で申し上げますと、1日1日最大 482リッター、前年に比べても相当伸びているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この水道事業が始まって、このときに — 昭和63年度ということでやっていますけれども、庄司市長さんが市長になられて最初の議会で提案されたのがこの南房総広域水道事業にかかわる議案だったと思うんですが、前の市長さんが線路を引いたということなんでしょうけれども、しかし工事費の面で非常に今回大きく見込みが違いましたよということが明らかになった。それだけじゃないんです。需要量の見込み、これが大幅に狂ってきているというのは事実じゃないですか。人口が10%近く伸びますよ、それから水の使用量が 700リッター程度になりますよ、この辺は今の現実から見て、こういう数字で立てたという計画の見直しが必要なんじゃないですか。もともと私はこの水の利用量というのは過大だというふうに指摘もしてきましたけれども、今こうして見ると、実績を踏まえて、この需要量見込みについては見直しが必要じゃないですか。こういう点についての議論はどうなんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 水の需要につきましては、今の経済状況悪いわけでございますが、今後の回復、あるいはいろいろな大型事業によりまして人口の増等も、また生活様式の変化もあると思いますので、現在のところ水需要多くなっていくんじゃないでしょうか、こういうふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君）　そういうことを言っているんじゃないくて、結局はこの需要量の見込み違いというのは、膨大な施設をつくっちゃったよ、水の。しかし、それだけの需要が伸びなかったよとなれば、そうなれば、その間だれがその費用を負担するのかという問題があるわけです。需要量の見込み違いに基づく、そこから出てくるのは何かといったら、みんなお金なんです。どうやってそのコストを負担するのかという問題が出てくるわけです。その点できちんと認識を持つには、しっかりとした見直しをしないと――国や県との議論もしなきゃいけないでしょうし、この間の見込み違いについて、リゾートだ、リゾートだと国が言ったんだから、そのための需要を見込んだんだから、これにかかわる見込み違いは国にも責任があるんじゃないか、県にも責任があるんじゃないか、この水の始末はどうつけてくれるんだという話をしなきゃならないでしょう、そういうことを言っているんです。そういう議論が必要じゃないですかということを言っているんです。この需要量の積算をしてきたことについてのだれがどういう責任をとるのかという問題です。結局は見込み違いがありましたとお役人の方は言いますけれども、最後はみんな住民が料金で負担しなきゃならない話です。そういうことになったら困るから、この辺の議論をしてほしいと言っているわけなんですけれども、どうなんですか、その辺の見込みは。もうこの17市町村リゾートで浮かれた時代じゃないでしょう。水の需要についてもう少し冷静に考えなきゃならない時期なんじゃないか。そして、現実にはここまで工事が進んじゃった。これにかかわる費用の負担、コストの負担、どうしていくんだという議論を真剣にやってしなきゃならないんじゃないか。市長さん、いかがですか。

◎議長（福原　勤君）　庄司市長。

◎市長（庄司　厚君）　先ほどもこの工事はやむを得ないものであると認めるというお話をしましたけれども、これは全協でもお話ししましたように、工法による変更とか、あるいは地権者に対する問題とか、あるいは物価上昇等、こういう問題があると言いましたが、我々は最終的にこの水道料金は県下同一料金であるべきだ、この認識を持ちまして、17市町村長歩調をそろえ、そのために県の方へきちっとお願いしているという段階でございます。最終

的には県下均衡ある水道料金であるべきだ、そうでなければいけないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 市長さん、それは非常に心強く思うんですけども、大変です、敵はなかなかのものですから。言ってみれば、沼田知事という人はこの広域水道に工業用水の時代からかわりを持っていた。この水に関しては最大の関係者でありますから、これを向こうに回してきちんと負担をさせるというのは並み並みならぬことでありますから、そのことを肝に銘じていただきたいなと思います。最終的に住民に負担を課さない。県の補助事業といっても、半分は市が持ちなさいよとか、市の財政の負担もかなりあるものですから、これもある程度どこかで天井をつくってもらっていかないと、この南房総のところはとてもしないけれどもという問題もあろうかと思います。そういうことも含めてぜひお願いをしたいと思います。

ホームヘルパーの利用率の問題でありますけれども、市長の答弁では具体的な数字が示されなかったわけですが、全国平均では42.2、これに対してたしか館山市は17.1ということで、約3分の1程度の水準ではないかと思っておりますけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 館山市の率でございますけれども、国と同じように算出しましたところ、年間 19.38という数字が出ております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 若干計算が違いますが、いずれにしても褒められた数字じゃない。国の全国平均から比べれば、極めて低いということだと思います。それくらい館山のホームヘルパーは歴史がありながら住民の中に浸透していないという、これを実際の事実として受けとめなきゃならない、こう思うんです。

国の資料によりますと、例えば札幌では 9.8と極めて悪いです、ホームヘルパーの利用率が。それに対して横浜が69.6と、国の水準をはるかに上回

るホームヘルパーの利用率になっております。こうしたことの結果、老人1人当たりの医療費が札幌では113万7,000円、横浜は58万円。ホームヘルパーの利用率が非常に横浜は高い。そういう中では、実際に老人の1人当たりの医療費が非常に少なくなっている。これはそれ以外の要因も多分あると思います。しかし、こうした傾向はいろいろなところを見ますと読み取れるわけです。ホームヘルパーの活動率を高めていくということは、結局老人1人当たりの医療費が非常に少なく済む。言うところの社会的入院といいますが、結局はヘルパーもない、いわゆる在宅老人福祉施策がおくれているということになると、最後はみんな病院が面倒を見るということしかないということになりがちなわけです。そういうことの結果、こうした札幌のようなことが出てきているのではないかと。館山市もこうした札幌のようなことになってはならないと思うんです。

老人保健福祉計画の調査の中では家族の介護への希望が高かったというんですが、同時に厚生省は、家族の介護力への過大な期待というのは持つてはならない。その辺をよく留意して計画をつくれということも強調しているわけですね。そういうところから考えた場合には、やはり結果的には何かとなれば、家族の介護力と、それから公的なそれへの支援という問題で、このホームヘルパーという問題がやはり中心的な施策として浮かび上がってくるのではないかなと思います。

そこで、現在この利用率を高める上で、ホームヘルパーの申請から実際にホームヘルパーが来るまでの間どのぐらいかかっていますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 申請してから派遣されるまでの時間ということですけども、ちょっと手元に資料がございませんので、後ほどお答えしたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） これは広島県の町でのあれですけども、非常に入院中からこのヘルパーの派遣について病院と緊密な連絡をとって、退院と

同時にすぐにヘルパーの派遣体制が整うというような施策をとっているところがございます。また、緊急の場合には手続は事後的に済ませる。緊急の場合にはとにかくヘルパーを派遣するということをまず行う。手続は後に回すこともあり得るというようなことで運用している市町村もあります。館山市ではこの辺について、申請から派遣まで時間がかかるというのは余りいいことじゃないと思いますので、この辺については病院との連携をさらに密にして、退院と同時に場合によってはサービスができるという体制をとる必要があるんじゃないかなと思うんですけども、いかがですか。

◎議長（福原 勲君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 手続を簡略にというお話でございますけれども、貴重な御意見として今後参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

◎議長（福原 勲君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 総務委員会で先日館山の特別養護老人ホームをみんなで視察してまいりました。大変感心をしたわけでありますが、特老といえば寝たきり老人という先入観があるわけでありまして、所長さんも大変御努力をされておられて、車いすで出歩けるというように、できるだけ寝かせきりにしない。できるだけ車いすに乗せて、本人ができる限り自立できるようにしているんだ。確かに車いすで施設の中を駆け回っている方がたくさんおりましたし、話によりますと、特別養護老人ホームの運動会もあるというようなことで、大変すばらしいことだと思うんです。そのことは、在宅福祉という面で受けとめると、本当は自分の自宅が、あるいはその地域における福祉の体制が、ヘルパーの体制が整っていれば、かなりの方が自宅で生活をしていくことが可能だということを同時に示しているんじゃないかなと思うんです。

厚生省では在宅福祉の目指す水準についてということで、特別養護老人ホームに入っている方が――いろんなケースがありますから一概に言えませんが、自宅に帰ってくる、在宅福祉で生活ができるようにしていく、こういうこと。帰る人が出てくることを在宅福祉の水準として目指す。そのた

めのモデル事業も行うというような方針を打ち出しているやに聞いているわけであります。

そこで、館山市の目指すこの在宅福祉の水準について、端的に今言いましたけれども、特老に入っている方の中から一定の方は自宅に — もちろんいろんな条件があるから一概には言えませんが、自宅での暮らしに切りかえることができる程度の水準というのが在宅福祉として求めるべき水準ではないかなと思うんですけれども、その在宅福祉の水準についていかがお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） その在宅介護、私は基本的にはあくまでも自助努力、これは絶対必要だというふうに私は基本的に考えております。その上で相互扶助、そして公的扶助、この3つのバランスをいかにやっていくか、これからの老人保健福祉推進計画の中でそういった認識のもとに今後やっていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきましては、老人ホームに入っておられます方で、家族の介護力がついて家庭にお帰りになる方もいらっしゃる。非常にいい例でございます。最近の核家族化につれて、高齢者の方が身障者になった場合のその対処の仕方が非常にケース・バイ・ケースで難しくなっています。理想的にはやはり家庭において温かい介護力のもとに暮らすのがいいと言われておりますけれども、といって家庭に置くだけでなく、過日館山でもやりまして、そういう家庭におります身障者に全部車いすで集まってもらいまして、お医者さんがついて、お楽しみの一日の会をやりました。私も参りましたけれども、非常に喜んでいらっしゃった。さらに、老人ホームに入っておられます方も — 今のは市民センターを使いましたけれども、老人ホームの運動会というのは東運動場のあの体育館を使ったわけですが、お医者さん付き添いで一日楽しく過ごす。非常に喜々として、喜んでボール運動などをやっていたけれども、やはりケース・バイ・ケー

スによって違うし、しかも両々相まって行うことで、館山のこのホームヘルパー派遣が少ないからただ悪いというわけにはいかん。それだけ家庭の介護能力がある、まだいい家族制度があるんだという面も大いに認めていかなきゃいけないと思ひまして、といてそれに任せっきりじゃなくて、ある面ではホームヘルパーを派遣していくという、こういう行政といわゆる家族制度のよさが両々絡み合っていくものではないか、こう思うわけで、貴重な御意見としてお伺いしていますけれども、余り割り切っていない方がいいのではないか。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 先へいきます。

平和の問題でありますけれども、海軍砲術学校あるいは洲崎航空隊の問題でありますけれども、長野県に松代という — 松代の大本営が本土決戦に備えて — 全く今の常識で考えるとばかげたことでもありますけれども、大本営や政府関連機関を移転するということで、非常に膨大な施設がつくられました。これを保存する運動を進められているわけですが、ここを訪れる方が年間10万人いるんだそうです。戦争というものが日本人にとって非常に大きな歴史の傷跡、いろんな意味での思いを強くもたらしめているところがあります。そういう点で、館山も砲術学校、洲崎航空隊の問題を平和の問題として考えていくことが大事だという点を指摘いたしまして、終わりといたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほどヘルパー派遣についての申請から派遣するまでの日数ということで御質問がありましたけれども、できるだけ速やかに決定をしまして、遅くとも1週間以内ということで対応しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次に、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私は、さきに通告をしてございます2点につきまして御質問を申し上げます。

まず、第1点目の御質問でございますが、12月6日午後6時半ころ発生いたしました海上自衛隊下総基地第2燃料タンク爆発炎上事故で4名の死傷者が出たことは報道により御承知のとおりでございます。この事故によりまして、下総基地周辺の沼南町、鎌ヶ谷市では、基地周辺に学校、住宅などが立て込んでおり、地域住民に大きな不安を与えたと聞いております。この館山市には館空基地がございます。基地はもちろんでございますが、基地を抱える市として、この不幸な事故を教訓にしていかなければならないと思います。この事故の原因は現在調査中であるということですので、一刻も早く原因が究明され、二度とこのようなことのないよう願うものでございます。

市内にございます館空基地でも、下総基地と同様に燃料タンクがあるかと思えます。また、ほかにも、正確なところはわかりませんが、火薬類なども保管されているのではないかとということも取りざたされているということでございます。燃料に限らず、危険物の保管、取り扱いには法令に従った取り扱い義務があるかと思えます。館空基地の周辺には住宅も多くございますので、地域住民のためにも安全面について、たとえ基地内といえども、行政の側の安全管理体制、きちんと把握をされていると思いますが、いかがでしょうか。また、館空基地内にはどのような種類の危険物がどのくらいの量保管されているのか、行政として把握をしているのか。住民への安全を考えていかなければならない立場でございますので、市として把握していることをお伺いいたします。

次に、第2点目の御質問をさせていただきます。いよいよ大詰めを迎えている老人保健福祉計画でございますが、計画の素案を県に提出をされたと思えます。今県の老人保健福祉計画が一部県議会での質問に応じて答弁をされたということでございますが、県の計画と市町村の計画とのずれがあり、問題となっているという声を聞きます。県からは市町村に対して、問題があるとすれば指導に入っていると思えます。

私は先般、平成5年9月30日現在の全国の老人保健福祉計画の作成状況を

目にする機会がございました。計画決定に至った市町村は全市町村の11%で、357カ所ということでございました。千葉県内は該当の市町村は1カ所も入っておりませんでした。当然早く計画ができたからよいかというわけではございませんでしょう。中身の問題ですので、時間を目いっぱい使って中身の濃い計画を作成してほしいとお願いを申し上げておきたいと思います。

計画決定の市町村の中から大阪市の計画の一部を拝見いたしますと、国の方針が在宅ケアを中心にして計画を立てようとしているので、特色としては全中学校区に複合的機能を持つ在宅介護の拠点施設を整備しようとするところにあるということでございます。各サービスの目標量は、平成11年度末には、老人保健施設は現在の約15倍と別格でございますが、ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイなどは約3倍となっております。

市町村がこの計画を作成するに当たりましては、高齢者がいつでもどこでもだれでも必要とする保健福祉サービスを利用できるようにすることと言われ、そのためには住民に最も身近な行政主体である市町村が地域の高齢者のニーズと将来必要な保健福祉サービスの量を明らかにし、現状を踏まえ、将来を考え、計画的に体制整備をするためのものでございます。私もかねてより何回かこの問題につきましては御質問を繰り返し申し上げてまいりましたが、館山市の保健福祉体制を改めて考えてみますと、十分とは言えないまでも、成人病対策、寝たきりにさせないリハビリ事業、入浴サービス、給食サービス、訪問指導など、他市町村にうらやましがられる事業も幾つかあるということも他市町村の方から聞く機会がございます。現在ある事業に肉づけをすることにより、かなりの要望がクリアできるのではと思われるものもあると思います。

そこでお伺いをいたしますが、国から計画を立てるに当たっての基本的な考え方が指導されていると思いますが、市では地域性を踏まえた上で、どういう基本姿勢でこの計画を立てようとしているのか、改めてお伺いをいたします。また、この計画が現在どういう状況にあるのか、現状をあわせてお伺いをいたします。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、館空基地内の危険物への安全管理についての御質問でございますが、同基地に照会いたしましたところ、危険物の安全管理につきましては、消防法に基づき、万全な対策が講じられているとのことでございます。これを信頼しております。

次に、大きな第2、老人保健福祉計画は市としてどのような方針を持って立てようとしているのか、また作成の進捗状況や作業内容はとの御質問でございますが、計画方針につきましては、さきに実施いたしました高齢者ニーズ調査の結果を踏まえまして、在宅福祉施策の積極的な推進を軸として、あわせて施設福祉対策を盛り込んだ計画を考えております。

次に、作成の進捗状況等につきましては、現在計画原案を作成中でございまして、広域的な施設整備等につきましては、安房地域老人保健福祉圏域において調整作業を進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それでは再質問させていただきますが、こういった種類のいわゆる危険物と言われているものがあるのかという問いかけをいたしました。基地サイドでは消防法に基づきやっているということによろしいんですね。我々が例えば危険物の扱いなどをする場合は、消防法に基づき、関係の消防署ですか、そういったところに届け出義務があると思うんです。基地の中だからそれは言わなくてもいいということなのか、明らかにされているのかどうか、その辺をお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 館山基地の燃料の種類といたしますか、貯蔵している内容ですけれども、これは、館山基地はヘリコプター基地ということから、ヘリコプターの燃料ということで聞いております。内容につきましては、

J P 5と呼ばれております灯油の一種であるというふうに聞いておりまして、この燃料につきましては、今回発生しました下総基地の燃料と比較して引火しにくい性質を持っている燃料というふうに伺っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） もう一つお聞きしますが、燃料だけだったんでしょうか。回答がございましたのは、燃料類だけという回答だったのでしょうかどうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ただいま申し上げました燃料が主でございまして、そのほかにオイル系統、油脂等オイル系統が貯蔵されている。それから、少量ですけれども、海上捜下信号用の火薬類が貯蔵されているという内容を伺っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 少量の火薬類があるということですが、下総の基地の場合は、御承知でしょうけれども、周りは本当に住宅地、学校などございまして、病院などもございます。込み入ったところございまして、その点館山は片面は海ということですが、ただ周りに住宅地があるということは承知しておると思います。

7月の6日なんですけれども、館山湾の沖に——これは館空基地のヘリではなかったんですが、ヘリが海面に不時着をするというような事故がありまして、これも報道されておりますので御承知のことと思いますが、この事故に幸いにも市民が巻き込まれずに済んだということは、あそこら辺は漁船のふだんですと操業する区域でございまして。たまたまそのときは漁船はいなかったということで、市民は直接人災を免れたということで、ただそれが住宅地であったりとか、たまたま漁船がそこで操業していたりとかという機会があると困りますので、その辺をよく留意して行っていただきたいということで、私は館空基地の軍司令にお会いしまして要請をしてきたということがご

ざいます。

事故というのはやっぱり起こそうと思って起こすわけじゃないんで、突然思いもしないことが起きるとというのが事故のわけで、今回の下総の基地の問題もそうだと思います。市は市民に対しての安全を守る義務があるわけでございますので、その辺は——さっき市長さんの答弁の中では信頼しているというようなお言葉がございましたから、その辺はしっかりと安全管理をしていただきたい。市民は市長さんに命を預けてもいいというようなことで、ぜひお願いをしていきたいというふうに思います。

次に、2点目に移りますが、福祉計画のことなんですが、今原案の作業中であるということですが、この計画を立てるに当たって作成委員会がつけられておりますが、今現在まで何回の委員会を開催されているのでしょうか。また、この開催された中身、どのような内容の議論があったのか、おわかりでしたら伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 行政サイドの老人保健福祉計画作成委員会、それから市民代表者等によります懇談会という組織があるわけでございますけれども、今までの開催回数はそれぞれ2回行っております。その作成委員会の下に直接関係します職員で構成しているメンバーがあるわけですが、そのメンバーにおきましてはもう何十回と絶えず集まって検討を加えているわけでございまして、今後もこの開催につきましては——最終的には作成懇談会にお示しして、2月ごろ詰めるという計画でおりますけれども、今後もこの作成計画にのっとって進めてまいりたいというふうに考えておりますが、各委員会等の今まで検討してきた内容ということでございますけれども、ほぼ原案に近い体制で今整いつつあります。まだ発表する段階でございせんけれども、そういったことで、近々懇談会にお示ししたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 以前の私の質問に対しまして、計画をつくるに当た

って、市は関係市町村と協議をしていくという御答弁がございまして、先ほどの市長さんの答弁の中にもございましたが、この関係市町村との協議はどのようなことを協議をしてまいりましたか。どの程度されたのかもあわせてお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 関係市町村との協議事項の中には、広域的な調整を図る必要のある施設ということで、例を挙げますと、養護老人ホームあるいは特別養護老人ホーム、短期入所施設、ケアハウス、こういった施設が広域的に調整を図る必要があるんじゃないかということで、今まで調整をしてまいりました。今後にも必要に応じてこれらの内容について調整を図ってきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 先ほどの懇談会の方の話し合いが大体 ― 懇談会が行われたのが2回程度ということを知っておりますが、市民サイドからの ― 市民参加の部類ですよ。そういった人たちの懇談会はどういった内容が議論されているのかということは市として把握していますか。それと、その懇談会のメンバーはどういった人たちだったのでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、前後しますけれども、懇談会のメンバーということでございますが、市議会議員の代表者、それから住民代表、それから保健医療関係者の代表、それから福祉関係代表者、それから行政機関の代表者ということでメンバーを構成しているわけでございます。そして、さらにはどんな懇談会で検討を加えてきたかということでございますけれども、当初はこの事業を推進するに当たりまして住民のニーズ調査を行ったわけでございます。その内容と分析等を報告しまして、それに伴っての必要度を行政サイドとしてこれからどう検討していくかということを御説明申し上げまして、さらにはその間に三浦市とか、あるいは逗子市の視察研修を行いました。当然行政の職員、そして懇談会の委員の皆様の参加をいただきまして行

ったわけです。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 懇談会——作成委員会もそうなんですけれども、作成委員会は、恐らく何か重要な問題でもあれば、その都度細々とした——委員会は開かなくても、話し合いができるような状況にあると思いますんで、回数がどうだったのかなと思ってお聞きしたわけなんですけれども、それにしても、これだけの大事業をやろうというものについてなんです、回数がこんなに少なくて計画大丈夫なのかなという率直な気持ちがあるんですが、回数でないといえは中身の問題だと私先ほど申し上げましたが、中身が煮詰まっていればいいのかということなんです、ただでき上がるのを待っているわけにもいきませんで、少なくとも懇談会はニーズ調査の不足な部分を補う意味でも大変重要な部分ではないかというふうに思います。

それで、私もたびたびここでこうしてお願いをしてまいりました中に、懇談会をやるということをお聞きはしてまいりましたが、そのほかにどうやって生の声を聞くんですか、生の声をぜひ聞いてほしいということをお願いしてきました。そういったことは今現在まで行われていますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 住民からの生の声ということでございますけれども、当然その懇談会は住民代表者が多数を占めておりまして、その中での御意見、そしてさらにはニーズ調査を行った結果、内容について広報等でお知らせしたわけでございます。さらには、その中でつけ加えまして、何かさらにほかに要望があったらということで、広報等を通しまして市民に投げかけたというケースも、実績もございます。これからはさらにまた懇談会を開く中で住民からの意見を反映したいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） この計画の中でさまざまなサービス事業があるわけなんですけれども、そこでお尋ねしますが、サービスの必要度ということが

言われますが、サービスの必要度はどういう方法で算出をされましたか。また、算出方法の根拠も――国からの指導がもちろんあるんでしょうけれども、あわせて伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） サービスの必要度の算式、これはもうすべて全国統一の算式がございまして、それにのっとって算出をしているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） サービスの目標量をどう定めるのかについて伺ったわけなんです、皆さんにどこでもお聞きすると、国の指導にのっとって、県の指導にのっとっておやりになっているということでございます。このところへきて、一部でございますが、この問題が実は見直しをされるんじゃないかという話も聞きます。そういうことが耳に入って、とりあえず県の指導のもとにやっていこうというような、まさかそういうお気持ちはないでしょうね、伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） これから、平成6年度から実際にその計画にのっとって推進するわけでございますけれども、今の段階でその計画のとらえ方の見直しということは聞いておりません。これは実際にこの事業を推進する過程の中で平成8年ごろに見直しをする。これは推進する過程の中での見直しということでございますけれども、今の段階の、計画段階での見直しということは聞いておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） まさかそういうつもりですなんていうことはこういう場で言えるわけではないので、だからといってそうだと申しているわけではございません。

今からでも遅くないです。本当はもっと早くやってほしかったんですが、

そのつもりでかねがね要望もしてまいりましたが、いまだこの時点になって行われていないということをお願いをするんですが、より多くの人の意見を聞いておく必要があるのではないですかと再度お聞きをします。例えば、地域ごとに住民の方に集まっていたいて意見を聞くとか、市長さん、行政懇談会をおやりになりましたよね。ああいうようなことをこの福祉計画でもやれませんかどうですか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 今各地区で行っております行政懇談会、確かにその懇談会の中でも話は出ております。こういった老人保健福祉計画は今多くの市民が関心を持っているところでございまして、現に出ております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かに関心が持たれているんです。市長さんが行政懇談会をおやりになっても、全般的な意見を聞くんでしょうから、そんなに大勢の方からいろんな分野のお話をされても、そんなに1人、2人の意見で、スーパーマンじゃないんですから、分析はできないと思うんです。やっぱり集中してやってほしいということをお聞きしているんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 少しさかのぼっての住民ニーズ調査、その中でも、設定質問のほかに何かあったら自由に書いてください、要望してくださいという項を設けたわけでございます。そういった中でもいろいろ御意見が出ております。それから、先ほど申し上げました広報等での呼びかけ、市民行政懇談会、そういったあらゆる機会を通しまして行っているわけでございまして、十二分に市民のニーズを反映してきたかなというふうに理解をしているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かに要望欄、館山特製で、特徴的なやり方でおやりになった。あの結果が大体どういうふうなことが多かったかといえば、市

民が一番気にしている総合病院問題が多かった。そのほかいろんな意見がありました、あの中で — 私が生の声を聞いてくれと言っているのはそういうことじゃないんです。私たちがふだん生活するのに — 健康な人はいいです。両手両足元気で動く人はいいです。そういった不自由な人たちが生活していくスペースの中で、例えばいす1つ座るのにも、この人は何センチの高さのいすに座る、この人の手すりの高さは何センチの高さになるというような具体的な生の声が聞こえる。そういう声が必ずこの福祉計画の中で反映されていくだろうということを言っているんです。だから、そういった声を聞く場を — 今からでも遅くないじゃないですか。ぜひつくっていただきたいということをお願いしているんです。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この計画 — 平成5年度いっぱいでは計画は策定されるわけでございますけれども、これが — これからの目標年度でございます平成11年までの目標量がすべてであるということは理解をしております。これから推進する中で、あらゆる機会を通してまた多くの住民の声を反映していきたい。反映しながら、さらにまたよりよい計画をつくっていききたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） この議論を何回繰り返しても、どうも平行線のようなので、また機会がございましたらお願いしていきます。何回でもお願いいたします。

福祉計画は今とても大事な事業ですから、かねてから申し上げておりましたように、本当の市民参加で計画をつくってほしいと言ってきたことが反映されるのだろうか。反映されないということがとても残念でなりません。現在健康な人たちが自分がもし倒れたらどうなるんだろう、そういったことを考えたときに、子供がいる人は、子供がいるから、だれか子供が面倒を見てくれるだろう、また見てくれなければどこか施設に入ればいい、これが一般的な考え方だと思うんです。そういった住民に対して行政としてできること

があるんですよということを明らかにするためにも私は意見を聞くべきだと思っているんですが、ちょっとお聞きをしておきたいのは、市長さん、もし市長さんの御家族で、御家庭の中で――不吉なことを言って申しわけございませんが、市長さんがもしお倒れになって、そういう不自由なときになったらというようなことをお話しになったようなことはありますかどうですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 鈴木議員さんの御意見は、福祉計画の重要性を説かれ、そしてそれがためには市民のいろんなニーズ、市民の意見をいっぱい聞くべきだ。当然のことをおっしゃっていると思われます。今回の福祉計画の立案につきましても、市民 2,000人の方からのアンケートをきちっとっております。また、いろんな組織体を通じて、これから案的なものができるばいろいろ御相談していくわけで、これがやっぱり民主的な手法ではないかと思うんです。具体的に5万 5,000の方から全部聞くわけにはまいりません。しかし、お考えの点はわかります。福祉計画は大事だし、1人1人の個々に応じたところの優しい、温かい、そういう方針が大事だということはわかりますけれども、それを今ここで計画しろと言われてもちょっとあれでございますが、そういう御意見を大事にしていきたいという気持ちは同じでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 本当にぜひ大事にしていてもらいたいと思います。

私ごとで大変恐縮なんです、実は私の家族には体の不自由な家族がいるということは御承知でしょうが、先般法事がございまして、家を留守にしなきゃならないという機会がございまして、本来であると、私のうちでは3人の方をお願いをしているわけです。1人の人がだめだったら次の方、その方がだめだったらその次の方というふうに3人の方に常をお願いをするような状況にあります。ところが、たまたまこの日は3人ともだめだったということが出かける1週間前にわかりまして、慌てふためきまして、市の方にショートステイがあるじゃないかということでお願いをいたしました。たまたま特別養護老人ホームの方でベッドがあいておりましたので、何とかお医者さ

んから許可をいただきまして、診察をしていただきまして、お世話になることができまして、正直言って、私も視察には行ったり、何回かお邪魔はいたしておりましたが、実際に自分の身内があそこで世話になるということを目の当たりにしまして、本人がどういうふうにあそこに行って考えたかということもあわせて聞いてきましたが、本人は最初は本当に嫌だった。今までうちの中で済ませていたものが知らないところに行くのは不安でしょうがない、嫌だということで、とうとう行く前の晩までごねておりましたが、何とか行ってみてよかったというふうに言い出しまして、何がよかったんだということを聞きましたらば、私なんかまだまだいい方だったんだね、まだまだ大変な人もいるんだということが本人の口から聞けまして、本人のためにもよかったなというふうに思っているところなんです、そういったことも踏まえまして、館山には本当にいいところがいっぱいあるわけです。はっきり言って大きくはないです。小さいものがちょこちょここと——十分と言えないながらも、担当課の方々がみんな必死でやっていらっしゃるというようなものがたくさんあるわけです。それをもっと何で宣伝しないのかなということが私は不思議でしょうがない。何かあったら福祉事務所に聞いてくださいじゃなくて、もっと宣伝する場ですか、それを工夫でやっていってほしいなというふうに思います。そうすることによって、また住民の意識も変わってくるんじゃないかというふうに思いますので、よろしく願いをいたしたいと思います。

今作業を進めております老人保健福祉計画でございますが、正直言って、果たしてこの計画で、この状態でよいのだろうかという疑問は本当にめぐわれなしておりますが、作業に携わっている人たちの中にも、一生懸命やっておりますながら、同様の考え、私どもと同じような考えの人がいるという話も一部では聞きます。また、先ほども申しましたが、この計画自体何年後かに見直しが必要になるだろう、もう具体的に平成6年ごろにはだめじゃないかというような話もされているということもございます。現場で業務に当たっている人は、国、県の指導、この現場とのギャップということで不満を持たれているというふうな話も聞いております。また、一番問題なのは、私は財

政面の裏打ちが非常にお粗末だということではないかと思うんです。この計画には10年間で約6兆円の予算が計上されまして、1年間で6,000億ですが、全国3,300の市町村で単純に割ってみても大したことはできませんので、ぜひまた皆さん方もよく今後お考えをいただいて、精いっぱいやっていただくことをお願いをいたしまして、終わりといたします。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時43分 休憩

午後3時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

28番議員飯田義男君。御登壇願います。

（28番議員飯田義男君登壇）

◎28番（飯田義男君） 最後になりましたけれども、しばらく御協力をお願いいたします。かねてより通告してあります次の問題について御質問をいたします。

まず、大きな第1の問題でございますけれども、時代が非常に変化しております。この変化する時代に対応する市行政のリストラ——すなわち再構築を今後どのように認識しておられるか、お伺いをいたしたいと思います。私は昨年4月、島根県の出雲市を視察してまいりましたが、岩國市長のキャッチフレーズは、行政は最大のサービス産業である。5日勤務して7日分のサービスに励めというのがキャッチフレーズでございました。私が日ごろ考えていたことだけに、強い共感を覚えた次第であります。したがって、きょうの質問はそのような視点に立ってお伺いをいたしたいと存じます。

御承知のとおり、近年の不況は過去の不況パターンとは異なり、世界的な不況と相まって、今後もお5年から10年ぐらいは経済の低迷が続くであろうと予測する経済界や大企業などの一致した意見であります。かつては日本の花形産業でありました自動車や電気のような、あるいは鉄鋼企業でさえ、経営のリストラによって、抜本的な改革を勇断をもって断行せざるを得ない状況であることは御承知のとおりであります。一方、国や地方自治体も、税

収の激減によって、計画の変更や事業の延期または中止のやむなきに至っているところも多いと仄聞いたしております。また、政府の来年度予算の中で地方交付税の減額方針を指示するなど、さまざまな状況を予測すると、今後の市町村財政の運営はいまだかつて体験しなかった困難な時代が続くものと推察できるのであります。館山市も、既に計画実施中の上下水道事業に要する膨大な支出や、駅周辺の開発、道路整備並びに福祉センターの建設等々、中長期的事業が山積しておりますが、これらのプロジェクトを推進する一方、市民の生活環境の整備も充実をしていかなければならないのであります。このように限られた財源で多くの諸問題进行处理していくためには、従来の思考では対応できないと思うのであります。

そこで、小さな第1点として、この長期的な不況による財政の硬直化に今後中長期的にどのように対処していくおつもりなのか、お伺いをいたしたいと存じます。

次に、小さな2の質問もこれに関連したものであります。このように困難なときこそ、市長以下役職員が一致協力して、独創的な発想による行政手腕が求められると思うのであります。役職員の資質向上と能力を活用するためにどのように今後対処されていくか、お伺いをいたしたいと存じます。職員の資質向上のためには、絶えずあらゆる情報を提供したり、さまざまな研修や体験教育によって高度なノウハウがはぐくまれていくと思うのであります。館山市だけの狭い範疇に安住しては、すばらしいアイデアやユニークな発想は生まれないと思うのであります。地域におけるマスタープランを策定するときなどは、必ず土地の住民のほかに幅広い知識と豊かな経験を持った部外の人を参画させるべきだとも言われておることを私は聞いております。今後役職員の資質向上のためにどのような機会をつくっていくのか、またこれら役職員のすぐれたノウハウをどのように吸収して行政に反映をさせていくのか、お伺いをいたしたいと存じます。

次に、小さな第3点として、採算のとれない業務や事業がないとは言えないと思うのでございますけれども、これらの見直しと対策についてお伺いをいたします。もちろんこの問題については、予算を編成する上で絶えず検討

しつつ、措置をされているとは思いますが、いろいろな理由や旧来のしがらみもあって、改善することに苦慮していることもあろうかと推察いたします。このように財政が危機的状況になっては、旧来の慣習や思考にとらわれることなく、勇断をもって有効、適切な措置をすべきだと私は思います。この際、シビアに見直していく決意があるのかどうか、お伺いをいたしたいと思います。

次に、大きな第2の生涯学習運動の積極的な展開についてお尋ねをいたします。御承知のとおり、生涯学習が叫ばれるようになって既に15年ぐらいが経過していると思います。全国の市町村の中には、既に生涯学習宣言都市として組織づくりもできて、活発な運動を展開しているところがふえております。そもそも生涯学習とは、1人1人が自己実現のために自発的、個性的、創造的に多種多様な学習機会の中から自分に適した手段、方法を選んで、生涯を通じて継続的に行う学習であって、学校や家庭、地域社会等、あらゆる場面での知識、教養、技術や職業、能力、趣味等を習得して、広く文化、スポーツ、ボランティア活動等、いろいろの分野での活動が含まれており、要するに生涯学習によって生きがいや楽しみを求める運動が広がって、仲間づくりができて、地域づくりへと発展していくことにこの生涯学習というのは大きな意義があると思うのであります。

小さな第1の問いは、そのための組織づくりができていますのかどうか。もしできていないとすれば、いつごろまでにこの組織をつくっていかれるのか、お伺いをいたしたいと存じます。

次に、小さな2点として、市の歴史や文化、人情、風俗等、老人、壮青年、若年を問わず、ともに学び、ともに楽しむようなテーマやイベントがあれば御報告いただきたいと存じます。

さて、次には大きな第3として、総合病院として、特に救命救急センターの整備拡充について、その後の経過をお伺いいたします。この問題に関しては、私は昭和58年当選以来、あらゆる機会を通じて市民の世論として絶えず要望し、早期実現を期待し続けてまいりました。ほかの多くの議員たちも再三に及ぶ質問や要望が繰り返されておりますが、敷地や建設財源の問題で遅

々として進展していないのが現状であります。ところが、このたびようやく医師会から旧四中跡地の借り受けを申し込まれて、これが認可されることによって計画実施の段階に入られるのではないかと一縷の望みをかけております。建設財源や規模の条件、特に既存の病院、医院等との関連を含めて、今後なお多難な案件が山積されていると思いますが、経過とともに、将来的見通しと、市や広域圏組合のどのような援助、協力が予想できるのか、お伺いをいたしたいと存じます。

なお、次の質問として、これからの時代に対応する医療について国や県の考え方が変わったそうでありますけれども、どんな変化があったか。また、旧来的な総合病院は今後なくなって、基幹病院として、その診療内容、目的が若干異なったように思うのでありますが、その点の説明を求めたいと存じます。それとともに、一般の市民はあくまでも総合病院としての認識を持っておりますので、この問題について今後市民にどう理解を求めていくかもお伺いをいたしたいと存じます。

次に、大きな第4の農業委員会活動の活性化についてお伺いをいたします。日本の農業は、米問題を中心に今や危急存亡のときと言われており、将来的展望も示されないままに歴史的に重大な転機に立たされておると思います。しかし、農業はその国の基幹産業として確立をされていかなければならないと思うし、国事でなければならぬと信じております。このたびのウルグアイ・ラウンドによる決着によって、日本の農業に対する抜本的な改革、改善がなされることは必至であろうと思うのであります。館山市の農業も、花やレタスなどを除けばほとんど米作農家が多く、しかも専業農家の減少で、今後どのように集約的農業を進めていくか、難問は山積の状況であります。これらのことに直接関与し、指導していくのが農業委員会であり、その責任は極めて重かつ大であると思います。市長は国や県の補助金によって農業委員会を管理する責任があると思うが、激減するであろう農政を指導すべき農業委員の活動をより活発にするためにどのように対応していくお考えであるか、お伺いをいたしたいと存じます。

次に、最後の2の質問でございますけれども、農業委員会の会長さんにお

尋ねをいたします。前にも申し上げましたとおり、農業経営の一大転換期に直面しての委員の活動をより積極的に、かつ組織的な活動を指導していくためにはどのようなお考えを持っておられるか、御決意をお伺いいたします。

私は昨年7月からことしの6月まで約1年間、斉藤会長の指導のもとでいろいろ体験させていただきましたが、なかなか機会にも恵まれず、しかも委員の任期最終年という落ちつかない環境でもあった関係もあり、じっくり研修、討論する機会もなく退任したことにいささか後悔もし、反省もいたしております。毎月の定例会議案は、農地法第3条、4条、5条にかかわる農地の権利移動あるいは転用等の問題に終始しておりました。しかし、農業委員会には7つの使命があって、農地の集団化の促進、農業の担い手の育成、構造政策と地域活性化や、新しい時代を開く農政の確立等、農業政策全般にわたる使命達成に努力するよう義務づけられておるのであります。私も含めてその努力が足らなかったことを残念に思っておるのであります。このたび新しく選任された委員の方々も使命達成に意欲を持って張り切っておられると思いますが、使命を遂行するためには、まず知識や情報をキャッチしていくことが重要な基礎になると思うのでございます。そのためには、まず研修や視察も必要でしょうが、それぞれの研究グループをつくって話し合うとか、行動することが必要ではないでしょうか。委員会で解決できない問題については、さまざまな提言や要望を市長に向かって行使するまでになるよう私は期待をしたいのであります。斉藤会長は長年のキャリアもあり、委員会をまとめていく包容力もありますので、今後の指導にどのような決意があるのか、せっかくの機会ですから承りたいと存じます。

以上のとおり質問を終わりますが、細部不明の場合には再度の質問をさせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの飯田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、変化する時代のリストラの認識の問題でございます。小さな第1点目、長期的不況の中での財政運営についての御質問でありますが、

財政の硬直化を防ぐため、地方債の推移に配慮するとともに、経常経費の節減に努め、限られた財源の重点的かつ効率的な配分を図る等、財政の弾力性確保のために努めているところでございます。今後とも厳しい財政状況の中で、事業実施に要する特定財源の獲得などに全力を挙げ、健全財政の堅持を図りつつ、長期的な展望に立ちまして、各種事業の計画的かつ着実な推進に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

次に、小さな第2点目、役職員の資質向上、能力活用はどう対処されるかとの御質問でございますが、職員の資質向上は市政の重要課題と考えております。専門知識の修得、能力開発、さらに広い視野を身につけることを主眼に、職種及び階層に合わせまして、常に研修の充実、公務能率の向上を図っているところでございます。現在のように変化の激しい時代にありましては、一層積極的に職員の能力開発に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、不採算の業務、事業の見直しと対策についてどう考えるかとの御質問でございますが、館山市は行政改革の必要性を十分に認識し、事務事業の見直しを初めといたしまして、組織機構の簡素合理化、定員管理の適正化、民間委託、OA化等、行財政運営の効率化に取り組んできたところでございます。今後も効率的な行財政効果の実現に向けまして一層の努力を図っていききたいと考えております。

次に、大きな第2の生涯学習に関する問題、小さな第1及び第2に関しましては、教育長より御答弁申し上げます。

次に、大きな第3、総合病院救命救急センターの整備拡充についての御質問でございますが、医療施設整備充実についての経過につきましては、安房医師会を中心としまして、安房地域保健医療協議会及び安房郡市地域医療協議会におきまして安房医師会病院の整備充実の検討を進めるとともに、千葉県当局の支援についてお願いいたしております。また、安房医師会より安房医師会病院の建設用地候補として市有地借用の要望を受けているところでございます。

次に、国、県の考え方に変化があるか、市民の理解をどのように図るかとの御質問でございますが、医療法改正によりまして、今後医療施設の機能分

担が進められる方向でございます。安房医師会病院の整備充実につきましては、今後市民の理解を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の農業委員会活動の活性化の小さな第1点目、農業の重大な転機に直面しているとき、農業委員会活動は極めて重要と思うが、活発で、かつ積極的な活動を進める市長の考え方はいかがかとの御質問でございますが、御案内のとおり、第1次産業、特に農業を取り巻きます厳しい現状を重大かつ厳粛に受けとめているところでございます。館山市といたしましても、農業者の代表で組織されております農業委員会が地域農業の実態を踏まえ、農業振興のためより一層積極的に活動できるよう今後とも配慮してまいりたいと考えております。

この大きな第4の小さな第2点目、委員の使命達成の問題につきましては、農業委員会会長より答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな第2の小さな第1点目、生涯学習の推進組織についての御質問でございますが、平成2年度から4年度まで文部省の生涯学習モデル市町村事業の指定を受けまして、生涯学習推進の各種施策を実施してきたところでございます。具体的には、推進するための全庁的な組織として、平成3年度に市長を本部長とする生涯学習推進本部を設置するとともに、市民を対象とした生涯学習講演会や推進大会を開催し、生涯学習の普及、啓発に努めてきたところでございます。今後の計画といたしましては、行政とともに市民参加による生涯学習推進協議会を設置し、市民と行政一体となって生涯学習基本構想及び生涯学習推進計画の策定など、その推進に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の小さな第2点目、生涯学習にかかわる実践活動についての御質問でございますが、生涯学習機会の提供としては、市民の多様化、高度化する学習意欲に応えるべく、各年齢層に合わせ、公民館を初め、図書

館、博物館におきましても、少年、青年、成人、高齢者、家庭教育の各教室、講座等を開催しているところがございます。また、幼稚園、小中学校におきましても体験学習を重要視する方向が打ち出されており、農業、漁業、製造業者等の訪問学習を実施するほか、老人ホームの訪問あるいは伝統工芸等の学習を通じ、お年寄りや地域の人びととのふれあいを行うなど、世代間交流の推進に努めております。今後も市民のニーズ等を十分反映させて、積極的に生涯学習の推進を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 農業委員会会長。

（農業委員会会長齊藤 明君登壇）

◎農業委員会会長（齊藤 明君） 飯田議員の御質問についてお答えをいたします。

大きな第4の小さな第2点目、委員の使命達成のため、より積極的かつ組織的な活動を指導していく会長の決意を承りたいとの御質問でございますが、御案内のとおり、農業委員会は農地等の利用関係の調整、自作農の創設維持、その他農業全般にわたる諸問題を農民の創意と自主的努力によって総合的に解決していくことを目的とした代表機関として、農業委員会等に関する法律に基づいて設置されている行政機関でございます。館山市農業委員会の幅広い業務の中で、農政に関する建議、意見具申等が重要な位置を占めているところでございます。今後につきましては、私を含め、委員全員が心を同じくし、農業委員会活動の規範となる農業委員会憲章を遵守し、自覚するとともに、委員会業務のより一層の充実と、研修会の独自開催、各種講演会、研修会への参加等、農業委員として資質向上を図り、農業者が魅力ある農業経営の実現に向け、少しでも希望を持てるよう積極的に努力をしてまいりたいと思っている所存でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 簡潔に質問いたしますので、要領よく御回答を願いたいと思います。

来年度の予算編成に当たって、12月末にはもう大体決めちゃわなきゃいかんと思いますけれども、概略でいいんですけれども、どのぐらいの予算規模になるか、そして地方交付税はどの程度のいわゆる収入になりそうなのか、いわゆるもらえそうなのか、そういった点についてお答えをいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 来年度予算につきましては、現在各種事業について各部のヒアリングを実施しているところでございます。また、歳入につきましては、地方財政計画等定まっておりますので、具体的額等についてはまだ定まっております。いずれにしろ、来年は厳しい財政状況でございますので、適切な事業執行に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 先ほど市長から概括的ないわゆる再構築に対するお答えがありましたけれども、重点的に財源を使うということをおっしゃいました。そのとおりで、総体的に各課10%を減らせとか、そういう極めて短絡的な予算の節減方法は私は余り賛成できないと思います。場合によっては、今非常に利息も安いし、この際勇断をもって事業をやって、多少財政収支が悪くなっても、将来に向かってそれがあるいは非常に大きな効果を上げるかもしれないし、そういったことも検討されて、重点的な事業をやるように、重点的な予算配分を行うようお願いをしたいと思います。その点について市長さんのいま一度——簡単なお答えで結構でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 本年度の市政遂行につきまして、このような経済状況下ではございますが、館山市政に関しましては、年度当初企画しました諸事業が予定どおり遂行できる状態にございまして、非常にうれしく思っております。次年度は、事業の着実な推進と、先ほどの御意見の中にもございました市民生活の環境整備とともに、新しいまちづくりに計画的に打ち込んでいきたい、こう考えているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 伺うところによりますと、この不景気は恐らく5年、10年まで低迷するだろうということでございますから、本年度はまあ何とか予算が組めても、来年度は、さっき神田議員の質問にあったように下水道の追加負担とか、いろんな問題があるかと思います。したがって、相当苦しくなるんじゃないかと思うんですけれども、現在市には庁舎の建設積立金として9億200万あるそうでございます。それから、財政調整基金として16億8,000万ですか、5年度の末で予想されるそうでありますけれども、これらは将来的にはいわゆる事業に利用することも考えないかいかんかなと私は思っておるんですが、今の状況では、5年や10年は庁舎を新しくするなんていう環境ではございませんので、そういったことも市長は将来的には考えておられるかどうか、お伺いをいたしたい。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 端的に申し上げますが、庁舎の積立金につきましては議会の議決事項でございますので、私の方からこれを直ちにほかへどうのこうのということは申し上げられませんし、また現状においては考えておりません。

調整基金につきましては、平成5年度で一部取り崩しまして流用しておりますけれども、今後の財政状況いかにによりましてそこら辺で調整していく、そういうふうになりますが、なるべく健全財政を維持しながら思い切った行政展開をやっていききたい、こう考えています。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） この問題は、あとは市長の判断にお任せしたいと思っておりますけれども、要するに市の行政というのはやっぱり市民へのサービスが最も重要な問題であります。会社は投資をしてもうけて、それを株主に配当するというのが建前でありますけれども、市役所はいわゆる限られた税金で、いわゆる100%の税金から200%のサービスをするように努力する、創出をする、いわゆるサービスを市民に提供するのが仕事でありますから、そういう点をひとつ十分踏まえて今後市の行政、いわゆる市民サービスに努めていただきたいと思います。もちろんことし1年や来年のことだけでなく、

将来的に何をやっていいかといういわゆる市長の立候補のときのビジョンもございしますので、ひとつ十分そういった問題の実現に努力するよう期待をして、この問題は次へと移りたいと思います。

関連しますけれども、職員のノウハウをどうやって吸収するかという問題であります。半澤市長の時代には、半澤市長もなかなかあいう優秀な市長でございましたので、職員がある意味では市長のオールマイティーで萎縮していた面があったんじゃないかというような感じを受けました。しかし、最近庄司市長になって、ややはつらつとして職員は勤務をしておるようでありますけれども、まだまだ市民の中には市の職員のサービスが余りよくないという意見も一部お伺いをしております。私たち昭和30年代に入った当時の市の職員の態度とはもう全然違って、非常によくなっておりますけれども、なおこれから市の職員のそれぞれ1人1人のノウハウをいわゆる市政に反映させるためには、その部署でその人のいわゆる独特な能力というものを開発する意味では、やはり市長一人の力でなくて、市職員全体のいわゆる組織の活動、組織の努力というのが一番大事だと思います。だから、その部署部署の人たちにある程度自由裁量の余地を与えて、いろんな発想を提言をさせたり、あるいはそれを吸収してどうやって市政をまとめていくかというのが、やはりこれが多くの人を使う1つのコツではないかと思うんですけれども、その点について――これは助役さんの仕事になると思いますけれども、市長の意図を受けて、市の職員の今後の教育についてももう少し具体的にお答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 御質問にありましたように、行政、市は最大のサービス産業、そのとおりであると思います。サービス産業ということは、それを担当する職員の資質、これがいかに重要かということになると思います。したがって、今までも資質向上と能力開発、こういったことで、各種の研修を数多く行ってまいりました。講師を呼んでの研修ももちろんですが、自治専門校ですとか自治大学、さらには上級官庁といいますか、県の地方課を初め、県庁のいろいろな主要な課に職員を毎年派遣して研修をしてきてい

るところでございます。さらに、館山市の特色といたしまして、クオリティーコントロール——QC活動、これを民間企業が始めたとほとんど同時ごろ、昭和59年からQCサークルをつくりましてQC活動を進めてきているわけです。それで、それぞれの担当5人から7人ぐらいで1チームをつくりまして、平成4年までに延べ270チーム、人員にして延べ1,700人かかわってきて、それぞれの仕事をいかにしたらもっと効率的に、あるいは市民にサービスとすることができるかというようなことをやってきているわけです。したがって、こういったことはこれでいいということがないわけでございます、さらにこれからも一層力を入れて研修を進めていって、優秀な職員の資質を持った集団として市長を補佐できるよう努力していきたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 現在職員の数——定数条例の上では何名で、現在減らした減数はどのぐらいか、参考に承りたい。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） 定数条例の定数については後で御報告したいと思います。平成5年4月1日現在の職員数は、市長、助役、収入役、教育長を除きまして541名でございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 出雲市を例に出して申しわけないんですが、あそこは岩國市長になって1年間でいわゆるついていけない職員が50名やめてしまった。そのかわりと言っちゃあれですが、パートを現在80名使っているということでございます。パートというのは、各課の分掌にかかわらず、仕事の繁閑に応じて自由に動かせるということで、非常に便利だということを言っております。したがって——これは市長さんの考え方もあらうと思いますけれども、助役さんのお答えで結構ですけれども、将来職員を余りふやさないで、パートでできるところはパートでやるようにしたらいいんじゃないかという感じもするんですけれども、そういった考え方についてどのように認識しておられますか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 確かに職員をふやすということは、非常にそれに伴って人件費がふえるわけでございまして、スリムな組織で運営できることが一番望ましいわけでございます。しかし、部署によってはパートというわけにはいかない。やはり専門的につかなきゃいけないところが多いわけでございまして、それらの兼ね合いをよく見まして、パート、あるいは場合によっては既に委託というような形で対応しているところもございまして、今後検討すべき課題である、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 最後に、不採算性のある業務や事業、これは今ここで具体的に申し上げてもどうかと思いますので控えますけれども、十分ひとつ再検討をして、これは単なる例ですけれども、ごみの収集なんかはもう民間委託をしている市も大分多くあるように思いますし、給食の仕事もそういう傾向があるようでございます。これらがいい悪いは別として、これも検討していただくし、それから電算機の機械化の問題も大分検討しないと――随分損得があるということを聞いておりますけれども、これらも十分検討して、合理性のあるやり方を進めていただきたいという希望を申し上げておきたいと思います。

次に、生涯学習についてでございますけれども、戦後の教育は自由と民主主義を機軸とした教育であります。しかし、経済成長の中で、日本人としてのアイデンティティーが失われつつあるように思うんです。しかし、ようやく最近教育の見直しということで、徳育に重点が置かれて、いわゆる倫理教育というんですか、情操教育ですか、そういう問題が大きく取り上げられるようになったわけでございます。これはまことに結構なことであろうと思います。生涯学習の中で、自然教室推進事業とか、あるいは勤労生産学習とか、あるいは奉仕体験学習とかふるさと学習とか、いろいろ言い方はあると思いますけれども、こういった総合的なものを生涯学習の中で組み込んでいかなければならぬと思いますけれども、これはあくまでも学校教育を含めたいわゆる一体的なものでなければいかんと思うんですけれども、将来小学校、

中学校あたりの生徒と、地域の老人でもいいし、いわゆる非常に得がたい体験を持っている人たちとの話し合いとか、あるいはそういう人の講話を聞くとか、そういうこともこれからやる必要があるんじゃないかと思います。この点について教育長さん、どういうふうに考えていらっしゃいますか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 先ほどの定数条例の職員数でございますが、581人でございます。もう一度繰り返しますが、平成5年4月1日、一般職が541、定数条例上の定数が581ということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいま御質問の各学習内容につきましての御質問でございますけれども、この点につきましては、それぞれが特色ある学習形態をやっておるわけでございます。それを総合的にそれぞれの学校で考えながら、年間の教育計画の中にそれぞれを位置づけており、また中には特定の研究学校の指定等を実施して、その成果を各学校に広めるというようなことについても実施しているところでございます。

なお、館山市におきましては、それぞれの学校の置かれている位置の地域の特性というものを十分に加味した中でもって、特色ある学校経営ということに邁進するように指示を与え、また実践をしている段階でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） この問題幅が広いんで、ちょっと時間がございませんので次に移りたいと思いますが、いわゆる生涯学習の現在の大きな拠点となっております公民館活動です。これは非常に大きな地域における生涯学習のためになる仕事をしていると思います。ただ、残念なことに、この公民館活動について非常に積極的なところとややマンネリ化したようなところがあるやに承っておりますけれども、予算の配分は人数だとか1つの企画に合わせて平均的に配分しているやに承るんですが、その点はいかがですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 館山市におきます公民館活動でございますけれども、中央公民館を軸にいたしまして、各地方にございます10館の館長さん方を軸にいたしまして、それぞれが先ほど申しました学校と同じように、それぞれの地域の中でそれぞれの地域の特色のある学習を進めるということを基本にいたしまして、それぞれの地域でもって可能な学習または講座等の御希望によりまして、ある程度の予算のウェートづけというものを現在実施しているところでございまして、なかなかそれが不可能なところ、または講師等に恵まれないとか、そういう面につきましては、昨年度、本年度あたりから中央公民館が出先のなものとして、出前講座といいますか、各公民館の館長さん方と連絡をとりながら、そういう講座も今開始しているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） よそのことばかり申し上げて申しわけないんですが、出雲市あたりでは実にすばらしい公民館、恐らく5億、6億とかけたような公民館が各所にあって、そこが拠点として活動しております。それは今当然望むことはできませんけれども、せめて公民館活動の中でモデル地区をひとつ設定をされて、その活動を1つの参考にして、次のいわゆる活動のためにひとつモデル地区をつくってみたいらどうかと思うんですが、その点どうですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいまの御意見は貴重な意見として参考にさせてもらいたいと思いますけれども、現在館山市におきましては、先ほどお話ししましたように、組織づくりを行い、将来的な立場の中でもって現在検討を進めている段階でございますので、そういう中でも十分に話していきたい、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 総合病院の問題に移ります。

大分前進はしてきたようでございますけれども、今後この病院をつくるために医師会長は40億、いや50億はかかるだろう、こういうことを言っており

ます。そうすると、医師会だけでは到底これは不可能なわけでございますけれども、果たしてこれに対する援助が国や県、あるいは市がもちろん中心にならなきゃいかんと思いますけれども、広域圏でできるのか、市がやるのか、それとも近隣町村だけで応援してやるのか。主軸になるのは館山市だと思いますけれども、市長さんはどのように今後その問題を進めていかれるおつもりですか、財源的に。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 医師会の会長から医師会の総意として、現在の医師会病院は、検査にかけては全国的に誇る内容を持っている。このよさをさらに充実させて、救急センター的な機能を持たせるためには、現在の場所では、またあの建物では不適であるということから、新しい医師会病院の候補地として東運動場用地を希望されたわけでございます。この医師会病院の新しい建設とか、あるいは内容の充実とかに関しましては、広域圏で大いに賛同し、応援しているわけでございますが、館山市が、あるいは広域圏が公設の病院をつくるだけの力はございません。また、これは不可能でございます。あくまでも私たちは医師会病院の設立、充実に協力するということでございまして、金銭的な面での話し合いというのは一切されておられませんし、また医師会そのものがどの程度の規模をどういう図面をもってというところまでいっておられませんので、我々はこぞってこれは県の方へ協力を要請するということに焦点を絞っております。現状はそういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） この問題は地域社会の最も大きな要望でございますので、ほかの市町村で総合病院を経営しているところは、2億、3億と毎年つぎ込んでいく市もでございます。そういったことを考えれば、この際相当な協力もしてやらなければ実現しないかと思っておりますので、ひとつ市長さんの今後の活動に期待をいたしたいと思っております。

次に、農業委員会の問題ですが、御承知のとおり、さっき市長さんもお答えになったように、非常に今農業委員会の活動が期待されるときでございますので、今後は農業委員会がいろんな活動をしていく段階で当然予算的な措

置も必要になると思います。そういうときに、これは必要だというお認めを
いただくなれば、市長さんはそれを承認する御意思がありますかどうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 予算につきましては、きょうの飯田議員さんの最初
の質問にありましたように、市民のために、生活環境の整備あるいは新しい
まちづくりのために重点的に使ってまいりたい。この問題につきましては、
農業委員会の会長さんと十分話し合って、その問題が浮上した場合、あるい
は必要度に応じて検討してまいりたい。今の段階で総括を申し上げるのはち
よっとできません。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） これは農業委員会の会長さんと事務局長さんにお
伺いしたいんですが、私は1年間やって、農業新聞をとらせていただいて、
農業委員会のページというのがございます。それを見ると、各よその市町村
で非常に農業委員が活発な活動をしているのが記事になっております。それ
を見るたびに、私はこのままでいいのかなといういつも疑念を持ったわけで
ございます。1つをとってみますと、佐倉の兼坂 祐さんという人は、私と
同い年ですけれども、30町歩ぐらい初め集団で農業を始めて、今40町歩ぐら
いやっているそうですが、米は1万円で売れば十分だというようなことを
言っております。そういったいわゆる新しい時代の農業経営についていろい
ろな農業委員が活動している面があるわけでございますので、今後農業委員
会の活動に大きな期待をかけております。どうかひとつ事務局長さんも、い
ろんな情報をやっぱり会長さんのところへ提供してやらなければ会長さんも
動けないと思いますから、会長さんにそういう情報をどんどん提供していた
だきたい。

なお、農業委員会の活動というのは、市と、それから農協と、3者一体で
この活動を進めなければ効果は極めて薄いと思います。そういうことで、ひ
とつこの際十分御検討なされて、農業委員会の活動に大きな期待をかけ、せ
っかく1年間御厄介になった御恩返しのつもりできょうは通告質問をしたわ
けでございますので、御了解いただきたいと思います。

これもちまして私の質問を終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で28番議員飯田義男君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後3時56分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明14日は議案調査のため休会、次会は12月15日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは明14日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問